

市内遺跡調査概報 26

- 平成 27 年度 江尻南遺跡の発掘調査報告他 -

2017 年 3 月

高岡市教育委員会

市内遺跡調査概報 26

— 平成 27 年度 江尻南遺跡の発掘調査報告他 —

2017 年 3 月

高岡市教育委員会

序

高岡市域においては、現在341箇所もの遺跡が周知されています。これら多くの遺跡で釀成された文化は、先祖から代々受け継がれ、現代の高岡市の風土や郷土文化をかたちづくっております。本市としましては、これら貴重な文化財を今後も保護して参る所存であります。

このたび報告いたしますのは、個人住宅等の建設に伴い平成27年度に実施した試掘調査20遺跡39地区の概要です。

平成27年度の調査では、江尻南遺跡にて弥生中期・後期の弥生土器と多くの遺構を検出し、溝や土坑から良好な資料が出土しました。この調査により、旧庄川下流の弥生時代のようすが伺える貴重な資料を得ることができました。

本書が郷土における歴史探求や学術研究に活用していただければ幸いです。

末尾になりましたが、今回の発掘調査の実施にあたり、ご協力いただきました関係各位、地元の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年3月

高岡市教育委員会
教育長 氷見 哲正

例 言

1. 本書は、富山県高岡市において高岡市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 当調査は、個人住宅の建設等の開発行為に伴い実施したものである。
3. 現地調査は平成27年度に国庫補助金の交付を受けて実施し、これにかかる報告書作成は平成28年度国庫補助金の交付を受け、高岡市教育委員会が実施した。
4. 本書で報告する遺跡ならびに調査地区は20遺跡39箇所である。
5. 調査形態は、試掘調査と分布調査である。
6. 調査関係者は以下のとおりである。

課 長 杉森 芳昭 (28年度～)
高田 克宏 (27年度)
課長補佐 杉森 芳昭 (27年度)
主 幹 宇波 育代 (28年度～)
主 査 根津 明義 (27年度)
主 事 田上 和彦
杉山 大晋 (27年度～)
非常勤職員 上坂 哲也
菅頭 明日香 (27年度)
盛田 挑生 (28年度～)

7. 屋外調査は27年度に田上・杉山・菅頭が担当し、報告書の編集と写真撮影は整理員の協力を得て、田上・杉山・盛田が担当した。

8. 発掘調査及び遺物整理の従事者は次の通りである。 (五十音順)

【現地調査】

石田敏行 小板達朗 高嶋輝雄 畠山行男 馬道弘一

【報告書編集作業】

宮野美重子 山口淳子

9. 発掘調査にかかる遺物等の資料は、すべて高岡市教育委員会が一括保管している。

10. 現地調査や報告書の作成等は、以下の各氏・機関から指導・協力を得た。 (五十音順 敬称略)

下濱貴子 西井龍儀

凡 例

1. 本書に掲載した遺構図の方位は座標北であり、水平基準は海拔高である。
2. 本書においては、各遺構に対し、次のような記号を付してその種別を表した。
S A : 柵址 S B : 掘立柱建物 S D : 溝状遺構 S E : 井戸址 S K : 土坑
S X : 四地及び性格不明遺構
3. 本書においては、遺物実測図の縮尺のうち、特に記載のないものは土器・陶磁器類は1／3、
で統一した。その他は遺物番号などに記載している。

目 次

序

例 序

例 言

凡 例

目 次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境 1

第2章 試掘調査 5

- | | |
|-----------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 江尻南遺跡（土地区画整理地区） | 11. 下石瀬遺跡（楠地区） |
| 2. 越中国府関連遺跡（中島・松平地区） | 12. 東木津遺跡（市道地区） |
| 3. 中木津遺跡
(土地区画整理27街区1・25街区3地区) | 13. 中曾根遺跡（県道地区） |
| 4. 越中国府関連遺跡（大本・健美福社会地区） | 14. 越中国府関連遺跡（K A N E K O ・ オダケホーム地区） |
| 5. 越中国府関連遺跡（市営住宅・坂口地区） | 15. 出来田南遺跡（津野地区） |
| 6. 瑞龍寺遺跡（吉田・伏江地区） | 16. 上北島遺跡（森田地区） |
| 7. 中曾根西遺跡（清原地区） | 17. 越中国府関連遺跡（マルシン・島谷地区） |
| 8. 蔵野町遺跡（J A高岡地区） | 18. 下佐野遺跡（セブンイレブン地区） |
| 9. 下北島住吉遺跡（早瀬地区） | 19. 瑞龍寺遺跡（二塚地区） |
| 10. 江尻C遺跡（東野地区） | |

第3章 市内分布調査 30

第1節 調査の経緯と目的

第2節 調査の経過

第3節 位置と環境 第1項 地理的環境

- | | |
|-----------|--------------|
| 第2項 歴史的環境 | 1 円通庵遺跡について |
| | 2 周辺の遺跡や石造物等 |

第4節 調査の方法と成果 第1項 調査の方法

- | |
|-----------|
| 第2項 調査の成果 |
|-----------|

挿 図 目 次

- 第1図 調査位置図
第2図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）調査位置図
第3図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）トレンチ配置図
第4図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）出土遺物実測図1
第5図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）出土遺物実測図2
第6図 越中国府関連遺跡（中島地区・松平地区）調査位置図
第7図 中木津遺跡（土地区画整理27街区1・25街区3地区）調査位置図
第8図 越中国府関連遺跡（大本地区・健美福祉会地区）調査位置図
第9図 越中国府関連遺跡（市営住宅地区・坂口地区）調査位置図
第10図 瑞龍寺遺跡（吉田地区・伏江地区）調査位置図
第11図 中曾根西遺跡（清原地区）調査位置図
第12図 蔵野町遺跡（J A高岡地区）調査位置図
第13図 下北島住吉遺跡（早瀬地区）調査位置図
第14図 江尻C遺跡（東野地区）調査位置図
第15図 江尻C遺跡（東野地区）出土遺物実測図
第16図 下石瀬遺跡（楠地区）調査位置図
第17図 東木津遺跡（市道地区）調査位置図
第18図 中曾根遺跡（県道地区）調査位置図
第19図 越中国府関連遺跡（KANEKO地区・オダケホーム地区）調査位置図
第20図 出来田南遺跡（津野地区）調査位置図
第21図 上北島遺跡（森田地区）調査位置図
第22図 越中国府関連遺跡（マルシン地区・島谷地区）調査位置図
第23図 下佐野遺跡（セブンイレブン地区）調査位置図
第24図 瑞龍寺遺跡（二塚地区）調査位置図
第25図 調査位置図
第26図 対象地と周辺の遺跡
第27図 立面図1 (S = 1/50)、石塔 (S = 1/20)
第28図 立面図2 (S = 1/50)

図 版 目 次

- 図版01 遺構写真 江尻南遺跡（土地区画整理地区）
1. 第7トレンチ全景（東）
2. 第7トレンチ土坑SK01
遺物出土状況（南）
3. 第20トレンチ全景（西）

- 図版02 遺構写真 江尻南遺跡（土地区画整理地区）…………… 1. 第20トレンチ 溝S D01
遺物出土状況（南）
2. 弥生土器
3. 磨製石剣・須恵器・中世
- 図版03 遺構写真 越中国府関連遺跡（中島地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（東）
越中国府関連遺跡（松平地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（北西）
中木津遺跡（土地区画整理27街区1地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（北）
- 図版04 遺構写真 中木津遺跡（土地区画整理25街区3地区）…………… 1. 第2トレンチ全景（西）
越中国府関連遺跡（大本地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（北）
越中国府関連遺跡（健美福社会地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（西）
- 図版05 遺構写真 越中国府関連遺跡（市営住宅地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（東）
越中国府関連遺跡（坂口地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（南西）
瑞龍寺遺跡（吉田地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（北）
- 図版06 遺構写真 瑞龍寺遺跡（伏江地区）…………… 1. 第2トレンチ全景（東）
中曾根西遺跡（清原地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（西）
蔵野町遺跡（J A高岡地区）…………… 3. 第2トレンチ全景（東）
- 図版07 遺構写真 下北島住吉遺跡（早瀬地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（南）
江尻C遺跡（東野地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（北東）
江尻C遺跡（東野地区）…………… 3. 第2トレンチ溝S D01（西）
- 図版08 遺構写真 下石瀬遺跡（楠地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（西）
東木津遺跡（市道地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（南）
中曾根遺跡（県道地区）…………… 3. 第2トレンチ全景（東）
- 図版09 遺物写真 中曾根遺跡（県道地区）…………… 1. 第3トレンチ全景（西）
越中国府関連遺跡（KANEKO地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（北）
越中国府関連遺跡（オダケホーム地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（西）
- 図版10 遺構写真 出来田南遺跡（津野地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（西）
上北島遺跡（森田地区）…………… 2. 第2トレンチ全景（東）
越中国府関連遺跡（マルシン地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（北西）

- 図版11 遺構写真 越中国府関連遺跡（島谷地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（北）
下佐野遺跡（セブンイレブン地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（西）
瑞龍寺遺跡（二塚地区）…………… 3. 第2トレンチ全景（南西）
- 図版12 遺構写真 上野A遺跡（林地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（北東）
中木津遺跡（中村地区）…………… 2. 第2トレンチ全景（西）
中木津遺跡（山本2地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（南）
- 図版13 遺構写真 中曾根西遺跡（眞野地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（南東）
中曾根西遺跡（姫野地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（南西）
越中国府関連遺跡（親交開発地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（西）
- 図版14 遺構写真 中曾根北遺跡（柴地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（南）
中曾根遺跡（藤田地区）…………… 2. 第1トレンチ全景（北西）
波岡西遺跡（サークルK地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（南東）
- 図版15 遺構写真 中曾根館遺跡（高浪地区）…………… 1. 第1トレンチ全景（西）
上牧野宮袋遺跡（市道地区）…………… 2. 第2トレンチ全景（南）
蓮花寺遺跡（戸田地区）…………… 3. 第1トレンチ全景（北）

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

高岡市は富山県の西部に位置し、県内第2位の人口を擁する。市域は東西約24.5km、南北約19.2kmに及び、その面積は富山県域の約5%にあたる209.38km²を呈する。

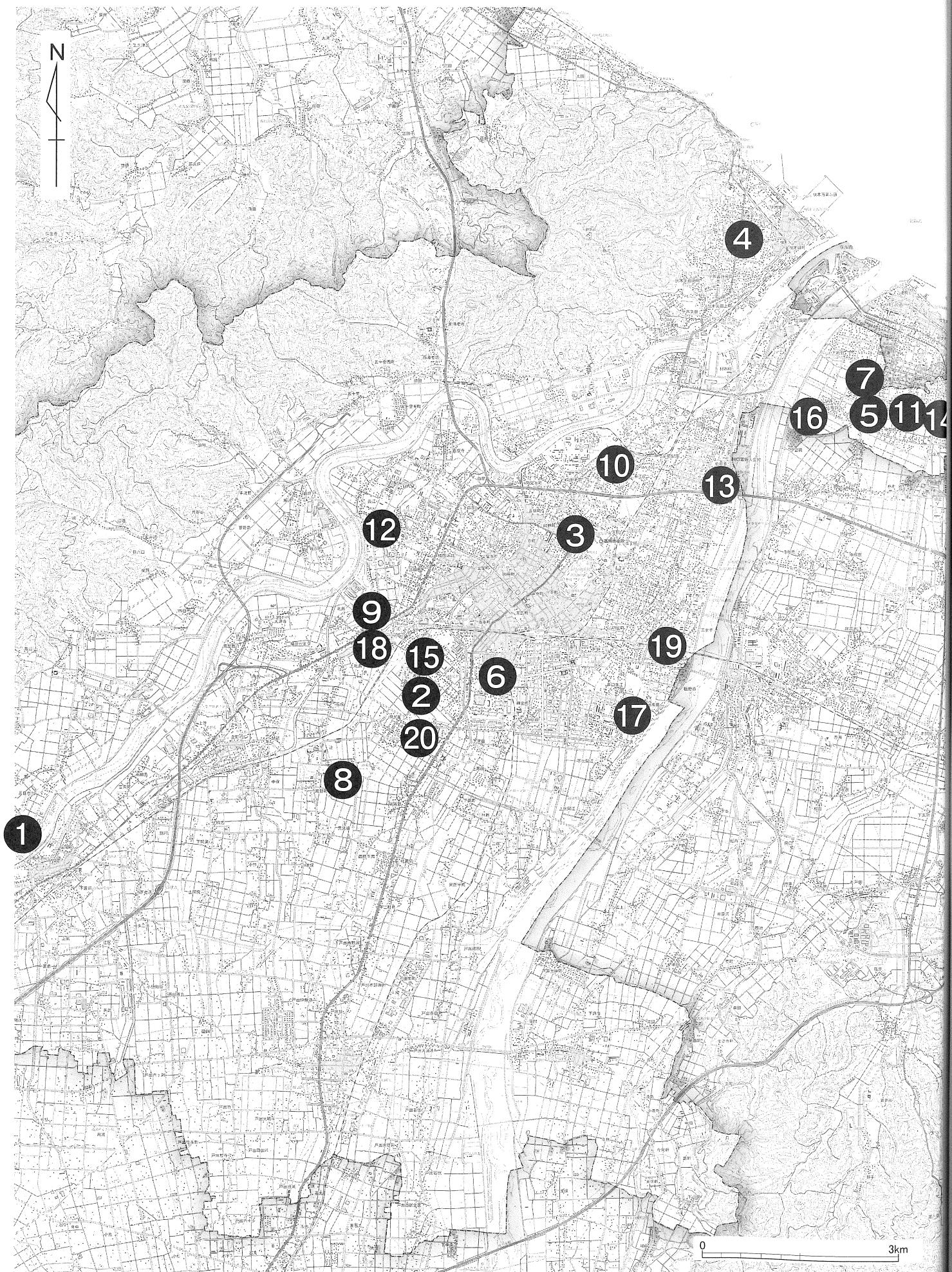
地形的には山間部のほか、丘陵部や平野部から成り、北部では日本海の富山湾に面する。平野部は北陸有数の穀倉地帯を形成し、古くから舟運や海運の発達を促しうる地勢を有した地域といえる。

市内には庄川と小矢部川が所在する。高岡の平野部はこの2河川による複合的な扇状地で形成されているが、小矢部川左岸では西山丘陵とよばれる標高300mに満たない丘陵がつらなり、能登半島の宝達山を主峰とする山間部に繋がっている。

現在、高岡市では341もの遺跡が周知されており、その分布状況は、山間部のほか丘陵部や平野部に大別できる。山間部では旧石器時代の遺跡が点在し、縄文時代の遺跡も谷あいの平坦地などで確認されている。丘陵部には古墳群や中世城館などが密集する。また、中保B遺跡や中世の木舟城の城下町遺跡である石名田木舟遺跡など、県内の考古学研究史を語るうえでも欠かすことのできない遺跡が集中している。

江尻南遺跡では、弥生中期・後期の弥生土器と多くの遺構を検出し、溝や土坑から残りの良い遺物が出土した。加えて、江尻C遺跡では古墳時代前期の遺物が出土している。北に位置する鷺北新遺跡では弥生～古墳時代の墓域も見つかっており、旧庄川下流の弥生～古墳時代の集落・墓域や各遺跡の年代観を把握する良好な資料を得られた。中曾根遺跡では、遺跡南側で弥生後期を中心とする遺構が広がっていることを確認した。

- | | |
|--|--------------------|
| ① 上野A遺跡（林地区） | ⑪ 中曾根遺跡（藤田地区、県道地区） |
| ② 中木津遺跡（中村地区、山本地区、土地区画整理
27街区1地区・25街区3地区、山本2地区） | ⑫ 波岡西遺跡（サークルK地区） |
| ③ 江尻南遺跡（土地区画整理地区） | ⑬ 下石瀬遺跡（楠地区） |
| ④ 越中国府関連遺跡（中島地区、松平地区、大本地区、
市営住宅地区、健美福祉会地区、親交開発地区、
K A N E K O 地区、マルシン地区、オダケホーム地区
島谷地区、坂口地区） | ⑭ 中曾根館遺跡（高浪地区） |
| ⑤ 中曾根西遺跡（眞野地区、清原地区、姫野地区） | ⑮ 東木津遺跡（市道地区） |
| ⑥ 瑞龍寺遺跡（吉田地区、伏江地区、二塚地区） | ⑯ 上牧野宮袋遺跡（市道地区） |
| ⑦ 中曾根北遺跡（柴地区） | ⑰ 出来田南遺跡（津野地区） |
| ⑧ 蔵野町遺跡（J A高岡地区） | ⑱ 上北島遺跡（森田地区） |
| ⑨ 下北島住吉遺跡（早瀬地区） | ⑲ 蓮花寺遺跡（戸田地区） |
| ⑩ 江尻C遺跡（東野地区） | ⑳ 下佐野遺跡（セブンイレブン地区） |



第1図 調査位置図

試掘調査

第1表 平成28年度の遺跡調査一覧

No	遺跡名	読み方	所在地	時代	種別	現状
1	上野A遺跡	うわのえーいせき	上野・宇岡山	縄文中期～前期 弥生・古墳・古代	集落	集落・耕作地
2	中木津遺跡	なかきついせき	木津	奈良～近世	散布地	水田
3	江尻南遺跡	えじりみなみいせき	江尻	縄文～中世	散布地	水田
4	越中国府関連遺跡	えつちゅうふかんれんいせき	伏木	古代・中世	官衛	宅地
5	中曾根西遺跡	なかそねにしいせき	中曾根	弥生～中世	散布地	水田
6	瑞龍寺遺跡	ずいりゅうじいせき	関本町・上関	近世	寺院	境内地
7	中曾根北遺跡	なかそねきたいせき	中曾根	弥生～中世	散布地	水田
8	歳野町遺跡	くらのまちいせき	歳野町	弥生～中世	散布地	水田
9	下北島住吉遺跡	しもきたじますみよしいせき	北島	縄文～古墳	散布地	水田
10	江尻C遺跡	えじりしーいせき	江尻	古代～中世	散布地	烟
11	中曾根遺跡	なかそねいせき	中曾根	弥生～中世	散布地	水田
12	波岡西遺跡	はおかにしいせき	波岡	古墳～中世	散布地	水田
13	下石瀬遺跡	しもししせいせき	石瀬	縄文・古代～中世	散布地	水田
14	中曾根館遺跡	なかそねたちいせき	中曾根	弥生～中世	散布地	水田
15	東木津遺跡	ひがしきついせき	木津	弥生～近世	集落・官衛	水田・宅地
16	上牧野宮袋遺跡	かみまきのみやぶくろいせき	上牧野	弥生～古墳・中世	散布地	水田
17	出来田南遺跡	だきでんみなみいせき	出来田	奈良～平安	集落	水田・宅地
18	上北島遺跡	かみきたじまいせき	上北島	平安～中世	散布地	水田
19	蓮花寺遺跡	れんげじいせき	蓮花寺	平安～中世	散布地	水田
20	下佐野遺跡	しもさのいせき	下佐野・西佐野	弥生～中世	散布地	水田

1. 江尻南遺跡（土地区画整理地区）

所 在 地 高岡市江尻字村中～
調査期間 平成 26 年 5 月 19 日～6 月 25 日
対象面積 27,813m²
試掘坑 23 本
発掘面積 約 927.97m²
調査原因 土地区画整理
検出遺構 土坑 24 基、溝 28 条
出土遺物 弥生土器（中期）、磨製石剣、古代須恵器、珠洲、近世陶磁器等
調査概要

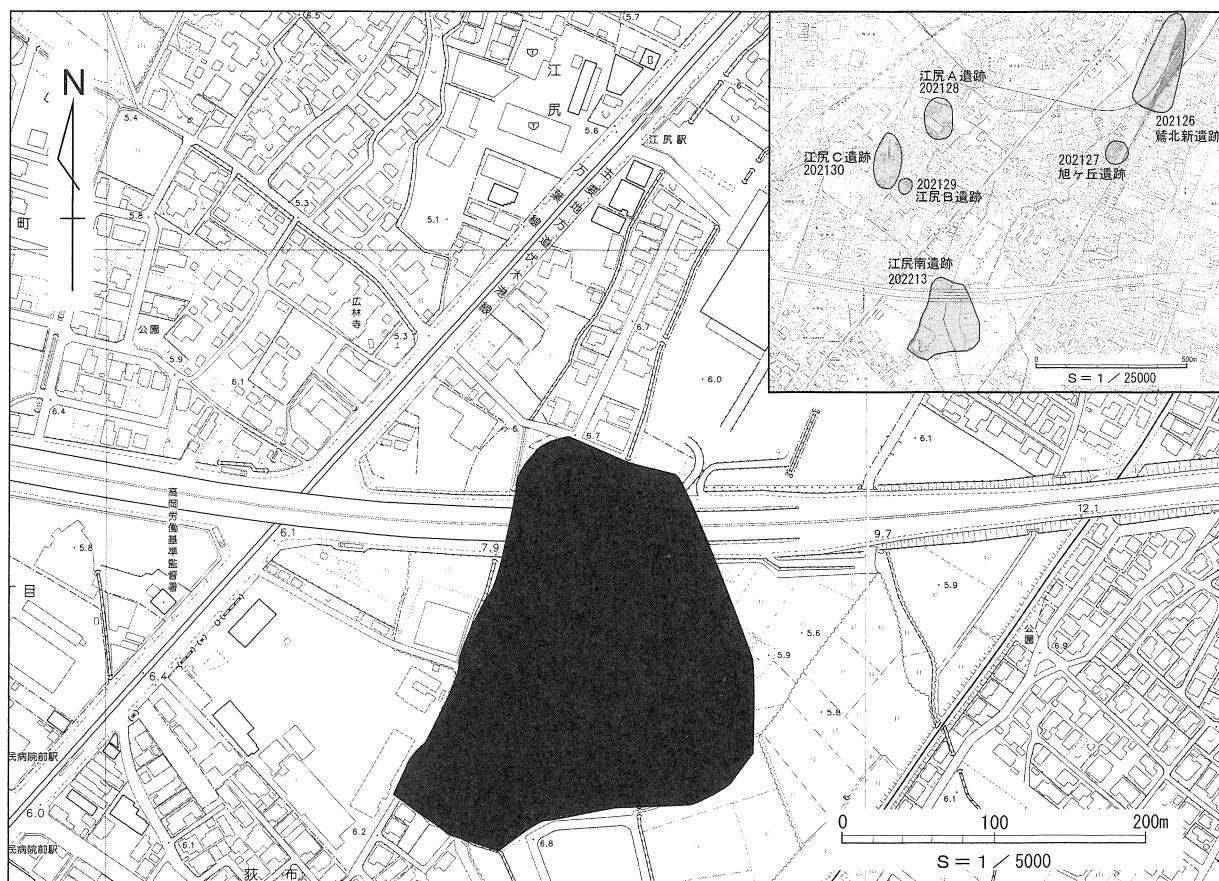
本地点は遺跡のほぼ全域を占める。江尻集落から南西の微高地上に位置する。過去の調査では明確な遺構の検出はなく、縄文時代後期・晚期の土器が見つかっている。

調査の結果、ほぼ全域で弥生時代中期・後期の遺構や遺物が検出された。特に中央部の標高が高い地点においては、表土から約 30cm で遺構検出面を確認し、遺構密度が高いことを確認した。弥生土器の残りも良いことから弥生時代の集落が存在すると考えられる。その他、縄文時代後期・晚期や古代、近世の遺物も出土した。

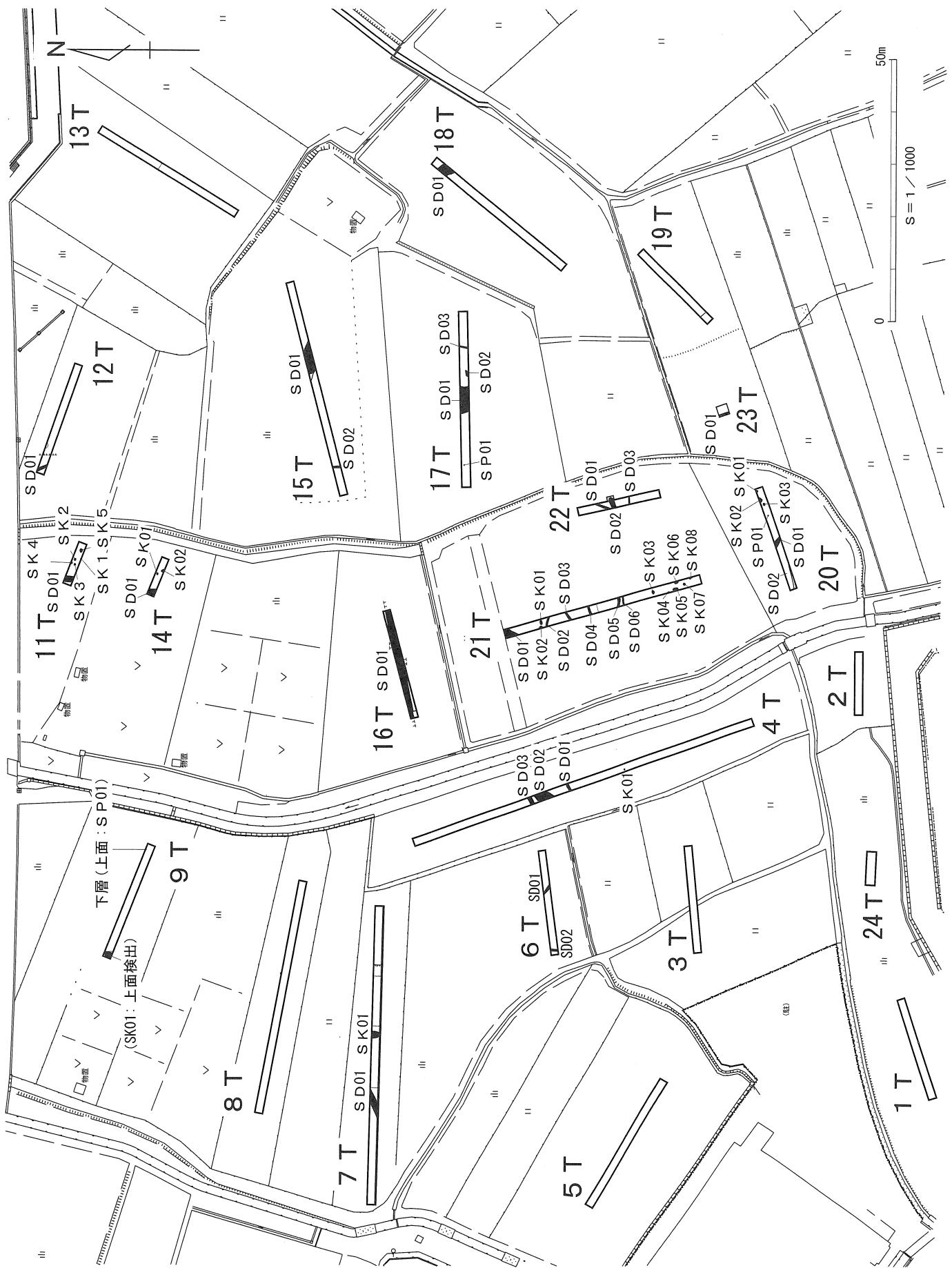
検出遺構（第3図）

遺構は土坑 24 基、溝 28 条を検出した。土坑は遺跡で最も標高が高い中央部の第 20 ~ 22 トレンチに集中していた。溝は中央と東側で多く検出されており、溝の主軸中央では東西方向、一段下がった場所では南北方向を指向している。溝からは幅広い時代の遺物が出土しているが、最も出土量が多いのは弥生時代中期・後期の遺物である。

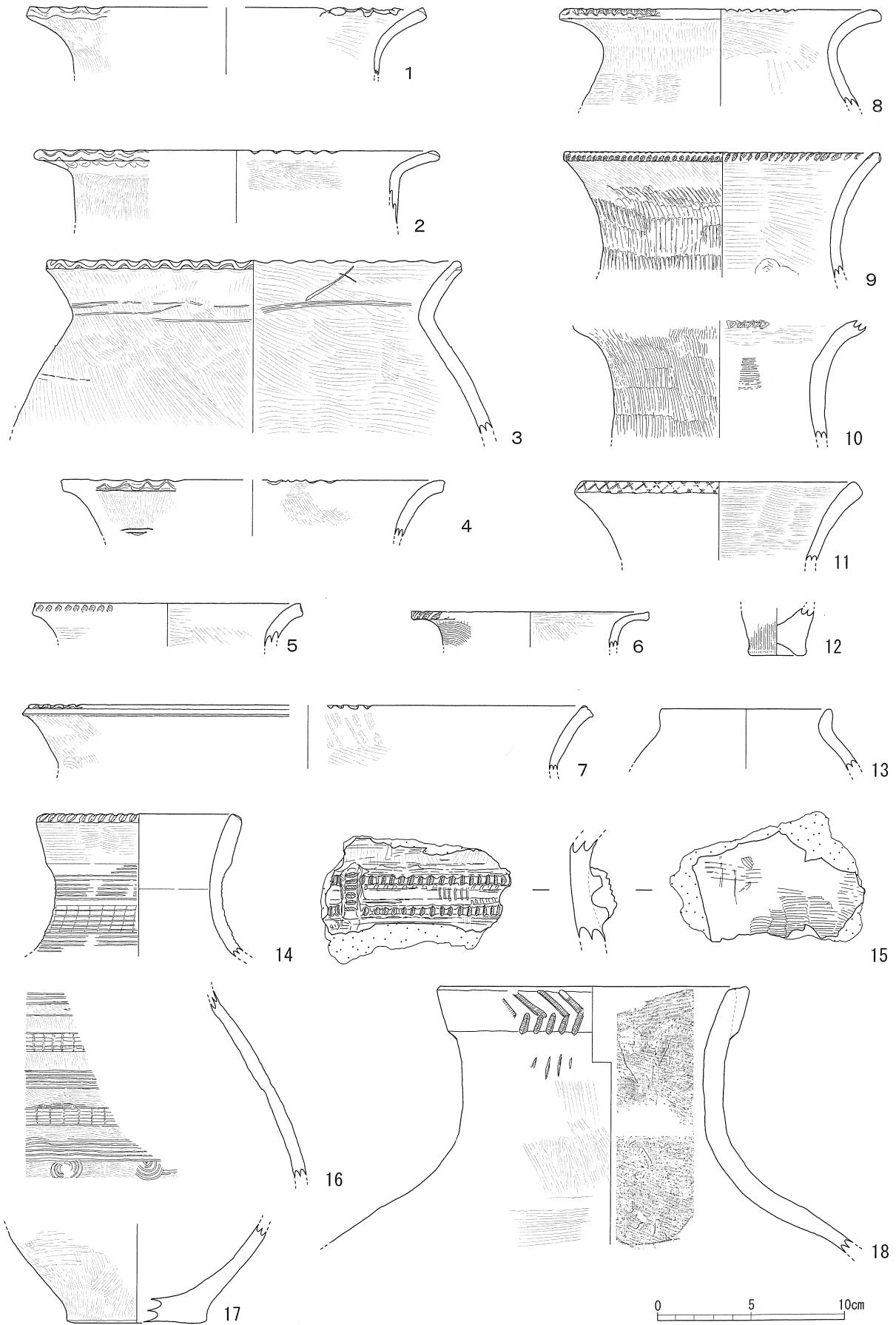
遺物も遺構と同様に、中央の微高地とその辺縁部で包含層と遺構より、残りのよい遺物が出土している。



第2図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）調査区位置図



第3図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）トレンチ配置図



第4図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）出土遺物実測図1

出土遺物（第2・3表、第4図、第5図）

出土遺物は、弥生土器（中期）、磨製石剣、古代須恵器、珠洲、近世越中瀬戸等が出土した。下記に出土した弥生土器および磨製石剣を紹介する。

1～7は甕である。1は頸部外面と体部外面にタテハケ、口縁部外面に波状口縁・ヨコハケ・ナデを施す。2は体部外面にタテハケ、頸部外面にナデ、口縁部外面に波状口縁、口縁部内面にナデ、頸部内面～体部にヨコハケ・ナデを施す。3は口縁部外面にタテハケ・波状口縁・波状貼付、口縁部内面にヨコハケ、頸部内面と体部内面にヨコハケ後ヨコナデを施す。4は口縁部～頸部外面に波状文・ナナメハケ・ナデ、口唇部内面に波状口縁を施し、口縁部内面は磨耗している。5は口唇部外面に櫛状連続刻目、頸部外面にヨコハケ、口縁部内面にヨコハケ、頸部内面にタテハケを施す。6は口唇部外面に櫛状連続刻目、頸部～体部外面にタテハケ、口縁部内面にヨコナデ、頸部内面にタテハケを施す。7は口縁部外面にタテハケ・波状口縁・下半ナデ・波状貼付刻目、口縁部内面にタテハケ・ナデ、頸部内面にナナメハケを施す。8は短頸壺である。口縁部外面・頸部外面にタテハケ、体部外面にタテハケ後ヨコナデ、体部外面上方にヨコハケ（帯状）、口縁部内面・頸部内面にヨコハケ、体部内面にタテハケを施す。9～11、14は長頸壺である。9は口唇部外面に刻み目、口縁部～頸部外面・体部外面にタテハケ後ナデ、口縁部内面に刻み目、口縁部内面・頸部内面にヨコハケ後ナデを施す。10は口縁部～体部外面にタテハケ、口縁部内面に刻み目、口縁部内面・頸部内面にナデを施す。11は口唇部外面に斜格子文、口縁部外面にナデを施す。外面は磨耗している。内面はヨコハケを施す。12はミニチュア弥生土器である。内外面は磨耗しており、底部外面にナデを施す。また底部外面付近はタテハケか。13は小型壺・鉢である。内外面はナデを施す。14は口唇部外面に櫛状連続刻目、口縁部外面にヘラナデ、頸部外面に櫛状簾状文・櫛描並行線文、内面にヨコナデを施す。15・16は大型壺である。15は頸部外面にタテハケ・凸带上連続刻目・横方向貼付後縦方向貼付後ヨコナデ、頸部内面にヨコハケ・ナデを施す。16は体部外面に櫛描並行線文（6条1本）・櫛描簾状文・タテハケ・ヨコハケ、内面にナデ・タテハケを施す。17は壺か甕の底部である。体部外面にヨコハケ、底部外面にタテハケを施し、底部外面は調整していない。体部内面・底部内面はケズリ・ナデ調整。18は短細頸壺である。口唇部外面に貼付後綾杉状ヘラ描沈線、頸部外面にヨコナデ・タテハケ、体部外面にタテハケ・ヨコハケ、内面にナナメヨコハケ、頸部内面にハケを施す。19は磨製石刀である。下部を欠損しており、全面を研磨している。刃部は比較的鋭利になるように加工しており、背面は平坦になるように加工している。寺前氏の論文（寺前 2010）を参考に考えると、今回出土した弥生土器と同じ年代の石刀ないし石剣に同じ形状のものは見られず、むしろ縄文時代から弥生時代前期の石刀に近い形状が見られた。

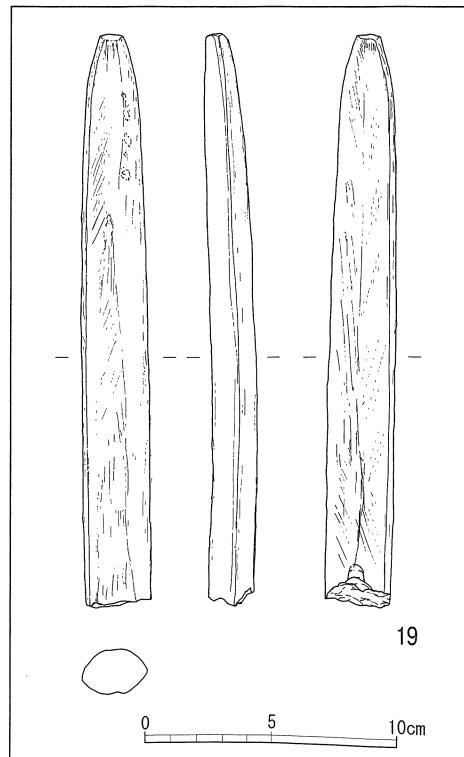
まとめ

今回の調査結果を受け、江尻南遺跡の概要について見つめ直す機会となった。周囲では本遺跡の北に位置する鷺北新遺跡平成25年度調査において弥生時代終末期～古墳時代初頭、古代～中世、近世末期～近現代の遺構・遺物が検出されている。特に弥生時代終末期～古墳時代初頭の区画溝が検出されている。墓壙および供獻土器などの遺物は出土していないものの、出土遺物の時期から方形周溝墓（方墳）である可能性がある。また玉作関係遺物も出土していることから、周辺に玉作を行っていた弥生中期～後期の集落が広がっていると考えられる。

平成28年度には本発掘調査を実施しており、その調査結果も合わせて検討してゆきたい。

第2表

番号	出土遺構	器種	法量				石材	備考
			長さ	幅	厚さ	重さ		
19	4T	磨製石刀	22.75	2.75	1.80	197.50	緑泥片岩	欠損あり



第5図 江尻南遺跡（土地区画整理地区）実測図2

第3表 平成27年度試掘調査 江戸南遺跡 区画整理地区 遺物観察表

番号	出土遺構	器種	大きさ (内外面・残存)	色調	焼成・胎土	器形・成形・文様・調整の特徴	残存率	備考
1	SK01	弥生土器 甕	口縁部径13.6 底部径13.6	内外面 にぶい黄澄 (10YR7/2)	焼成 胎土 密、白色・赤色礫径5-7mm少量含 やや不良	外面頭部・体部：タテハケ、外面口縁：波状口縁。内面：ヨコハケ・ナデ。	1/10以下	
2	SD02	弥生土器 甕	口縁部径21.0 底部径13.9	内外面 浅黄澄 (10YR8/3)	焼成 胎土 やや粗、礫径3-5mm少量含 良	外面体部・タテハケ・外面頭部：ナデ、外面口縁：波状口縁。内面口縁：ナデ、内面頭部～ 体部：ヨコハケ・ナデ。	1/10以下	
3	SK01	弥生土器 甕	口縁部径21.6 底部径19.2	内外面 にぶい黄澄 (10YR7/2)	焼成 胎土 密、白色・灰色礫径3-5mm少量含 やや不良	外面口縁 タテハケ・波状口縁・波状貼付。内面口縁：ヨコハケ・内面頭部・体部：ヨコハ ケ後ヨコナデ。	1/8以下	
4	5T	弥生土器 甕	口縁部径12.5 底部径12.5	内外面 褐灰 (10YR6/1)	焼成 胎土 密、灰色礫径3-5mm少量含 良	外面口縁～頭部：波状文・ナナメハケ・ナデ。内面口唇部：波状口縁。	1/10以下	
5	16T	弥生土器 甕	口縁部径14.0 底部径12.3	内外面 灰白 (10YR8/1)	焼成 胎土 密、黒・灰礫径3-5mm少量含 良	外面口唇部：輪状連続刻目、外面頭部：タテハケ。内面口縁：ヨコハケ・内面頭部： タテハケ。	1/10以下	
6	9T	弥生土器 甕	口縁部径12.6 底部径11.9	内外面 にぶい黄澄 (10YR7/2)	焼成 胎土 粗、白色礫径3-5mm少量含 良	外面口唇部：輪状連続刻目、外面頭部～体部：タテハケ。内面口縁：ヨコナデ、内面頭部： タテハケ	1/10以下	
7	SK01	弥生土器 甕	口縁部径13.4 底部径13.4	内外面 灰黃 (2.5Y6/2)	焼成 胎土 やや粗、礫径2-5mm少量含 やや不良	外面口縁：タテハケ・波状口縁・下半ナデ・波状貼付刻目。内面口縁：タテハケ・ナデ、内 面頭部：ナナメハケ。	1/10以下	
8	SD02	弥生土器 短頸甕	口縁部径16.0 底部径15.2	内外面 灰白 (10YR8/2)	焼成 胎土 粗、礫径5-7mm少量含 良	外面口縁・頸部：タテハケ・外面部：タテハケ後ヨコナデ、外面体部：タテケヅリ。 内面口縁：ヨコハケ・内面頭部：タテケヅリ。	1/10以下	
9	SK02	弥生土器 長頸甕	口縁部径16.6 底部径16.7	内外面 灰白 (10YR7/1)	焼成 胎土 密、白色・赤色礫径3-5mm少量含 やや不良	外面口唇部：刻み目、外面口縁～頸部・体部：タテハケ後ナデ。内面口縁：刻み目、内面頭部： ヨコハケ後ナデ。	1/8以下	
10	SK02	弥生土器 長頸甕	口縁部径15.5 底部径15.5	内外面 灰白 (10YR8/1)	焼成 胎土 密、白色礫径3-5mm少量含 やや不良	外面口縁～体部：タテハケ。内面口縁：刻み目、内面口縁・頸部：ナデ。	1/10以下	
11	21T	弥生土器 長頸甕	口縁部径14.4 底部径14.7	内外面 にぶい黄澄 (10YR7/2)	焼成 胎土 粗、白色・赤色礫径3-5mm少量含 不良	外面口唇部：斜格子文、外面口縁部：ナデ・外面磨耗。内面：ヨコハケ。	1/10以下	
12	7T	弥生土器 二チユ	口縁部径2.7 底部径2.7	内外面 灰白 (10YR8/1)	焼成 胎土 粗、白色・灰礫径3-5mm少量含 やや不良	外面口縁部：磨耗・外面底部附近：タテハケか、外面底部：ナデ。	1/10以下	
13	SD02	弥生土器 小型甕・鉢	口縁部径3.2 底部径3.2	内外面 橙 (7.5YR7/4)	焼成 胎土 密、白色礫径1-3mm少量含 良	外面：ナデ・ナナメナデ。内面：ナデ。	1/10以下	
14	16T	弥生土器 長頸甕	口縁部径10 底部径7.6	内外面 にぶい黄澄 (10YR7/2)	焼成 胎土 密、白色礫径3-5mm少量含 良	外面口唇部：輪状連続刻目、外面頭部：ヘラナデ、外面頭部：輪状輪状文・輪描並行線 文。内面：ヨコナデ。	1/8以下	
15	SK01下	弥生土器 大型甕	口縁部径5.1 底部径5.1	内外面 暗灰黃 (2.5Y5/2)	焼成 胎土 粗、白色礫径3-5mm少量含 不良	外面頭部：タテハケ・凸槽上連続刻目・横方向貼付後ヨコナデ。内面頭部：ヨ コハケ・ナデ。	1/10以下	
16	4T	弥生土器 大型甕	口縁部径10.0 底部径10.0	内外面 灰白 (10YR8/2)	焼成 胎土 粗、礫径1-3mm少量含 良	外面体部：ヨコハケ・凸槽並行線文 (6条1本)・輪描並行線文・タテハケ・ヨコハ ケ。	1/10以下	
17	SD02	弥生土器 甕	口縁部径5.3 底部径6.6	内外面 灰白 (10YR8/1)	焼成 胎土 粗、灰色礫径5-7mm少量含 良	外面体部：ヨコハケ・外面部：タテハケ・調整せず。内面体部・底部：ケズリ・ナデ。	1/10以下	
18	SK01	弥生土器 短細頸甕	口縁部径13.6 底部径5.0	内外面 灰白 (10YR8/2)	焼成 胎土 粗、白色・黑色礫径3-7mm少量含 やや不良	外面口唇部：貼付後繊杉状～ラ強沈強、外面頭部：タテハケ、内面頭部：ヨコハ ケ・ヨコナデ。内面：ナナメヨコハケ。	1/10以下	

2. 越中国府関連遺跡（中島地区・松平地区）

(中島地区)		(松平地区)
所 在 地	高岡市伏木古府2丁目169番の一部、172番6	高岡市伏木古府3丁目500番3
調 査 期 間	平成27年6月9日	平成27年6月10日
対 象 面 積	276.93m ²	200.09m ²
試 掘 坑	1本	2本
発 掘 面 積	約3m ²	約4.3m ²
調 査 原 因	個人住宅建設	個人住宅建設
検 出 遺 構	なし	なし
出 土 遺 物	なし	なし

調査概要

中島地区は遺跡の中央に位置する。

試掘調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約110cm、標高約5.0m付近で自然堆積の礫層と砂層の地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

松平地区は、遺跡中央西側の二上山丘陵山麓に位置する。

試掘調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約150cm、標高約14.6m付近まで掘削しても近代以降の造成土の堆積が確認されるのみで、地山は検出されなかった。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。



第6図 越中国府関連遺跡（中島地区・松平地区）調査区位置図

3. 中木津遺跡（土地区画整理 27 街区 1 地区・土地区画整理 25 街区 3 地区）

(土地区画整理 27 街区 1 地区)

所 在 地	高岡市木津 899 番 1
調 査 期 間	平成 27 年 7 月 2 日
対 象 面 積	501.48m ²
試 掘 坑	1 本
発 掘 面 積	約 13.95m ²
調 査 原 因	土地区画整理
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし

(土地区画整理 25 街区 3 地区)

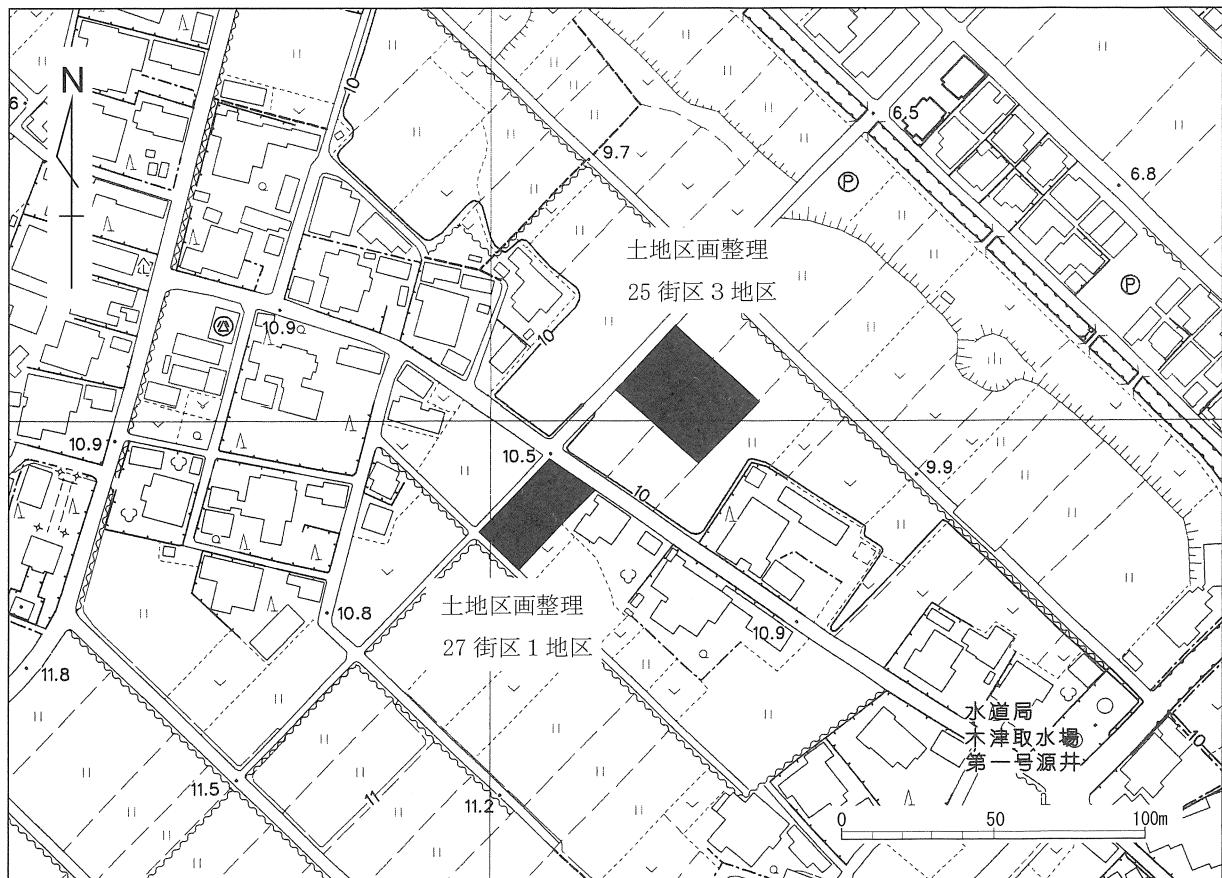
所 在 地	高岡市木津 866 番 1、867 番 1
調 査 期 間	平成 27 年 7 月 2 日、3 日
対 象 面 積	700.68m ²
試 掘 坑	2 本
発 掘 面 積	約 54.48m ²
調 査 原 因	土地区画整理
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	なし

調査概要

本地点は遺跡の北東に位置する。周辺では、市道建設や区画整理事業等の本調査が行われ、古代・中世の遺構・遺物が検出されている。

土地区画整理 27 街区 1 地区の試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 100cm、標高約 8.8m 付近で地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

土地区画整理 25 街区 3 地区の試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 100～170cm、標高約 8.3～9.0m 付近で地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。



第 7 図 中木津遺跡（土地区画整理 27 街区 1 地区・土地区画整理 25 街区 3 地区）調査区位置図

4. 越中国府関連遺跡（大本地区・健美福社会地区）

(大本地区)		(健美福社会地区)
所 在 地	高岡市伏木古府元町2番21	高岡市伏木矢田上町201番10
調査期間	平成27年8月6日	平成27年9月8日、10日
対象面積	199.50m ²	1,162.50m ²
試掘坑	1本	3本
発掘面積	約12m ²	約50.32m ²
調査原因	個人住宅建設	福祉施設建設
検出遺構	なし	溝1条
出土遺物	なし	古代須恵器（杯A・甕）、時期不明土師器

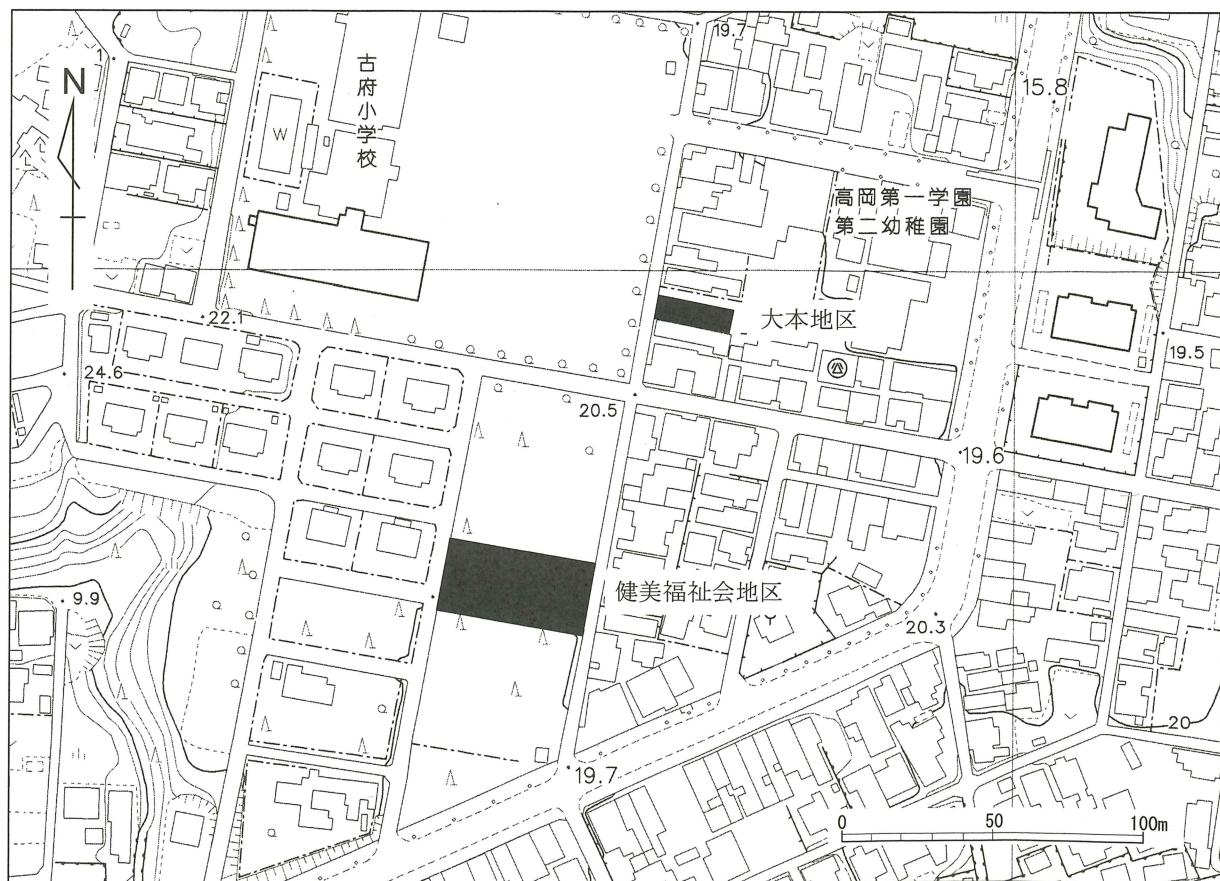
調査概要

大本地区と健美福社会地区は、遺跡の南に位置する。

大本地区的試掘調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約100～110cmまで掘り下げても、造成土が厚く堆積しており、地山は検出されなかった。また、トレンチ西端で地表面下140～150cmまで深堀りをしたが、搅乱を受けていた。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかつた。

健美福社会地区的試掘調査は対象地に試掘坑を3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、第1トレンチ内の地表面下約50～60cm、標高約20.1m付近で明赤褐色の地山を検出した。その他のトレンチは地表面下約90～100cmまで掘り下げたが、造成土や搅乱層を確認できたのみで地山は検出されなかった。今回掘削した全ての試掘坑からは、溝1条が検出され、古代須恵器、時期不明土師器が数点出土した。

対象地北側に設定した第1トレンチでは、地山面で溝1条を検出した。



第8図 越中国府関連遺跡（大本地区・健美福社会地区）調査区位置図

5. 越中国府関連遺跡（市営住宅地区・坂口地区）

(市営住宅地区)		(坂口地区)
所 在 地	高岡市伏木矢田上町201-7、208-2、209-1	高岡市伏木矢田上町135番9、135番10
調査期間	平成27年8月25日～27日、31日、9月2日	平成28年3月22日
対象面積	9,333.03m ²	408.82m ²
試掘坑	6本	1本
発掘面積	約168.055m ²	約23.25m ²
調査原因	市営住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	掘立柱建物1棟、土坑1基
出土遺物	縄文土器（時期不明）、古代須恵器（蓋・杯・等）、 時期不明土師器	古代土師器
調査概要		

本地点は遺跡の南に位置する。旧古府村に所在し、小字「上野」に比定される。本地点周辺は調査履歴が少ないが、地区総合流域防災（急傾斜）地区では古代の溝や中世の古国府城の土塁、堀跡等が検出されている。

市営住宅地区の試掘調査は対象地に試掘坑を6箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約60～70cm、標高約20.1m付近で明赤褐色土の地山面を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構は検出されなかつたが、1箇所の試掘坑で古代須恵器3点が出土した。

坂口地区的試掘調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、今回掘削した1箇所の試掘坑から掘立柱建物1棟と土坑1基が検出され、遺物は古代土師器が出土した。中央に設定した第1トレーニチでは、地表面下約30～40cm、標高約21.9m付近にて褐色に地山を検出した。遺構は北東～南西軸の掘立柱建物1棟を検出した。遺物は古代土師器が地山直上で出土した。周囲の状況から北東方向に建物は広がらず、南側又は西側に延びる可能性がある。東側半分は搅乱土が広がる中に土坑1基を検出したが、遺物の出土はなく時期は把握できなかった。



第9図 越中国府関連遺跡（市営住宅地区、坂口地区）調査区位置図

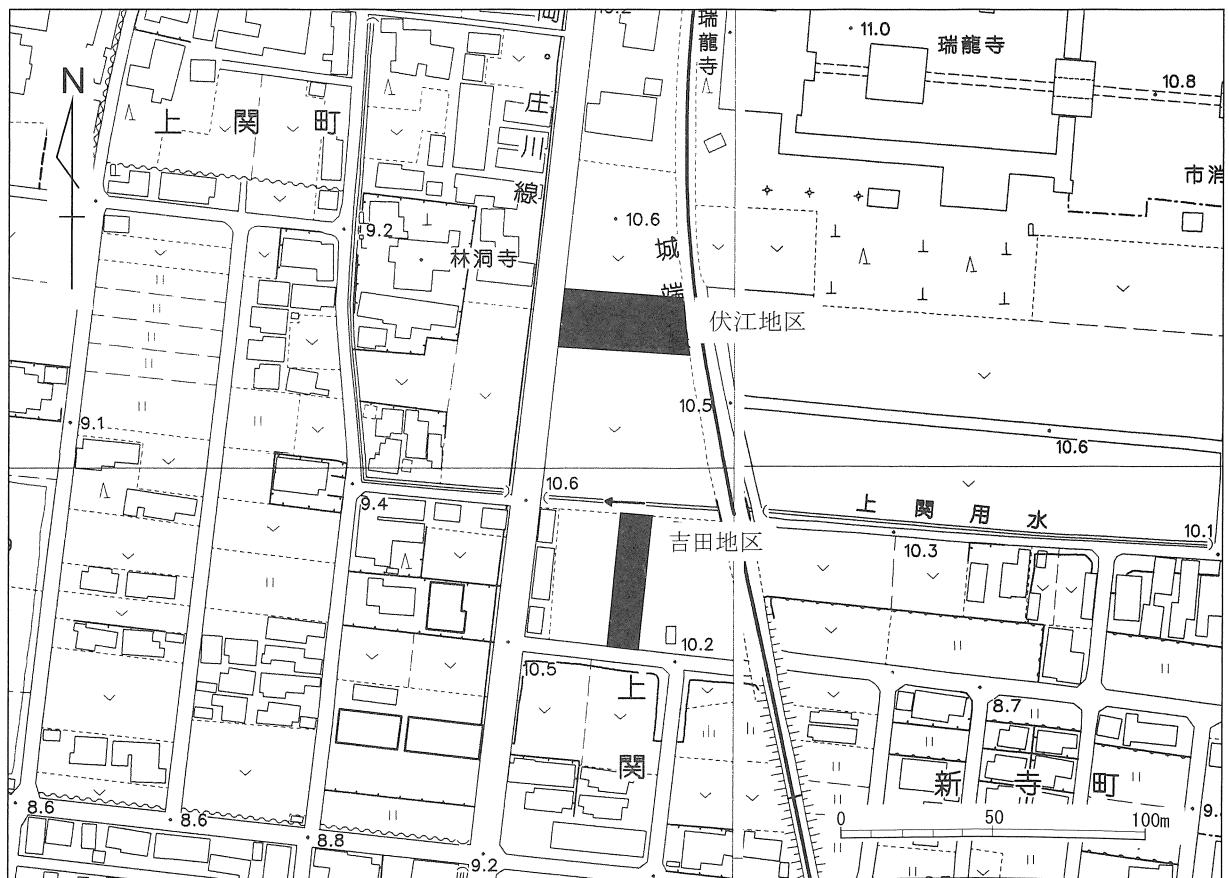
6. 瑞龍寺遺跡（吉田地区・伏江地区）

(吉田地区)		(伏江地区)	
所 在 地	高岡市上関1117-1	高岡市上関町 36番2	
調査期間	平成27年9月16日	平成27年12月15日	
対象面積	392m ²	約576.81m ²	
試掘坑	2本	2本	
発掘面積	約10.06m ²	約38.84m ²	
調査原因	個人住宅建設	集合住宅建設	
検出遺構	なし	なし	
出土遺物	古代須恵器片（蓋等）、時期不明土師器	中世珠洲（擂鉢・甕）、近世唐津（椀）、近世陶磁器片（椀）、近世燻瓦、時期不明土師器片等	
調査概要			

吉田地区は遺跡の南に位置し、旧境内地の絵図面等から堀の存在が想定される場所である。付近の試掘結果では、中世の遺構・遺物や、近世の瓦溜等が見つかっている。

試掘調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約60～70cm、標高約9.6～9.7m付近で灰白色粘土の地山を検出した。遺構は検出されず、遺物は古代須恵器片（蓋等）と時期不明土師器が出土した。

伏江地区は遺跡の南西に位置する。試掘調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約130～140cm、標高約8.6m付近まで掘り下げたところ、灰青色粘土の地盤面が検出された。遺構の検出はなかったが、遺物は地山上面の茶褐色土層から中世珠洲（擂鉢・甕）、近世唐津（椀）、近世陶磁器片（椀）、近世燻瓦、時期不明土師器片等が出土した。これらは後世の整地により流れ込んだものと考えられる。



第10図 瑞龍寺遺跡（吉田地区・伏江地区）調査区位置図

7. 中曾根西遺跡（清原地区）

所 在 地 高岡市中曾根 581 番地 3

調 査 期 間 平成 27 年 10 月 1 日

対 象 面 積 285.33m²

試 掘 坑 2 本

発 掘 面 積 約 15.12m²

調 査 原 因 個人住宅建設

検 出 遺 構 土坑 1 基、溝 2 条

出 土 遺 物 弥生土器片（鉢底部）、時期不明土師器片

調査概要

本地点は遺跡の東側に位置する。周辺の試掘結果では弥生時代中期～後期の集落や縄文時代から中世の遺物が見つかっている。近年、土地区画整理が進行し、発掘調査の成果が徐々に積み上げられている。

試掘調査では対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 50 ～ 110cm 下、標高約 0.9 ～ 1.4m 付近で地山を検出した。今回掘削した 2 つの試掘坑からは、溝 2 条（S D 01・02）、土坑 1 基（S K 01）が検出され、弥生土器片、時期不明土師器片が数点出土した。

対象地北側に設定された第 1 トレンチでは、標高約 1.1 m で地山面が認められ、溝 1 条（S D 01）が検出された。S D 01 から弥生土器片が出土した。対象地東側に設定した第 2 トレンチでは、標高約 2.9 m で基盤面が認められ、溝 1 条、土坑 1 基が検出された。



第 11 図 中曾根西遺跡（清原地区）調査区位置図

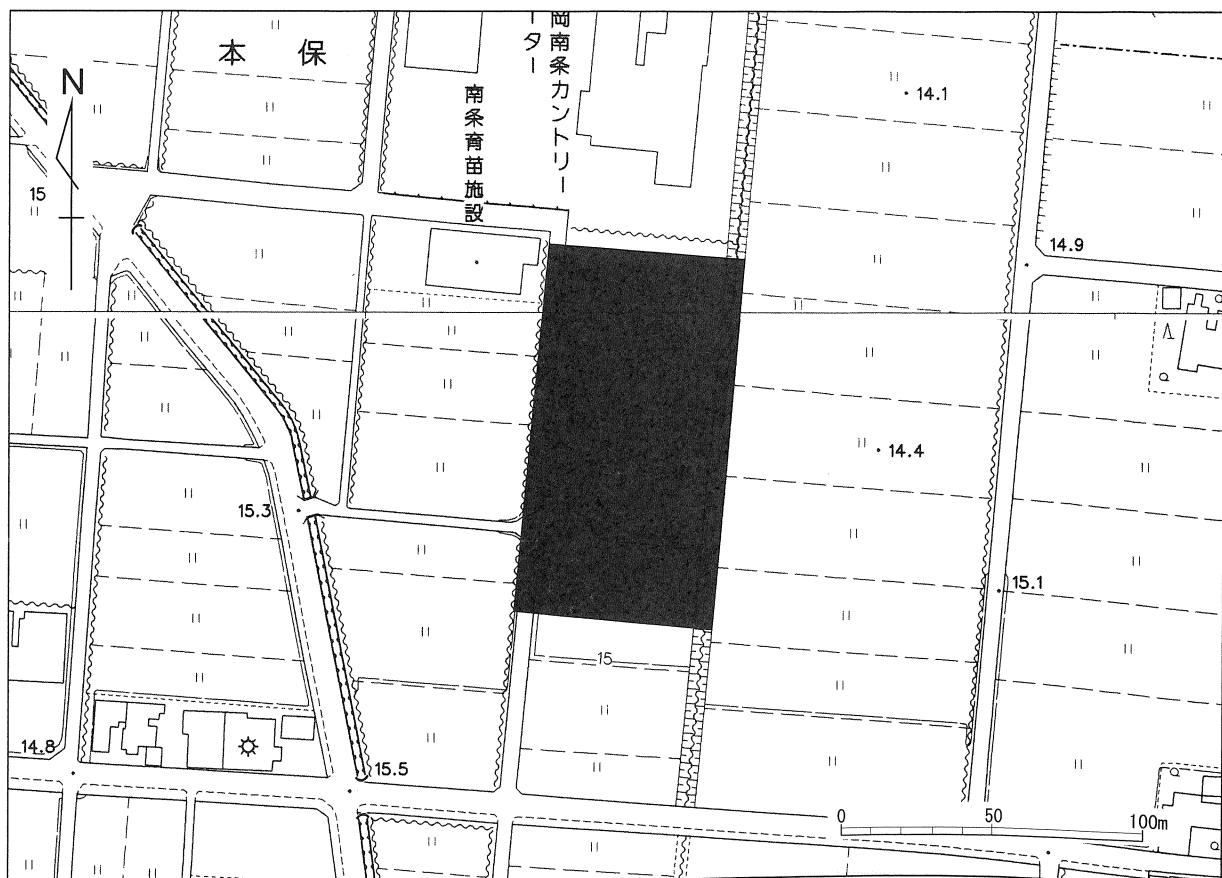
8. 蔵野町遺跡（JA高岡地区）

所 在 地 高岡市蔵野町 319 外 6 筆
 調 査 期 間 平成 27 年 10 月 19 日～ 22 日
 対 象 面 積 6,840m²
 試 掘 坑 5 本
 発 掘 面 積 約 347.62m²
 調 査 原 因 農業倉庫建設
 検 出 遺 構 なし
 出 土 遺 物 なし

調査概要

本地点は蔵野町遺跡の南に位置する。蔵野町遺跡は、北陸新幹線建設に伴う事前発掘調査が行われ、中近世の集落が見つかっている。また蔵野町東遺跡では、自然流路から装飾器台を含む大量の土器が出土している。

試掘調査は対象地に試掘坑を 5 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、掘削した全試掘坑において、地表面下約 40 ～ 60cm 、標高約 13.6 ～ 13.8m 付近で、地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。



第 12 図 蔵野町遺跡（JA高岡地区）調査区位置図

9. 下北島住吉遺跡（早瀬地区）

所 在 地 高岡市北島字住吉 133 番、135 番、136 番

調 査 期 間 平成 27 年 10 月 29 日

対 象 面 積 451m²

試 堀 坑 2 本

発 堀 面 積 約 15.9m³

調 査 原 因 個人住宅建設

検 出 遺 構 土坑 1 基、溝 1 条

出 土 遺 物 なし

調査概要

本地点は遺跡の中央に位置する。下北島住吉遺跡は、平成 2 年の高岡市教委による分布調査で、縄文時代から古墳時代までの遺物の散布が確認されている。また遺跡の南側には、上北島遺跡、石塚遺跡などが位置する。

試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 40 ~ 50cm、標高約 10.0m 付近で地山面を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、土坑 1 基、溝 1 条が検出され、遺物の出土はなかった。

対象地南側に設定した第 1 トレンチでは、地山面から土坑 1 基、溝 1 条が検出された。



第 13 図 下北島住吉遺跡（早瀬地区）調査区位置図

10. 江尻C遺跡（東野地区）

所 在 地 高岡市江尻字村中 711 番 1

調査期間 平成 27 年 11 月 4 日

対象面積 334m²

試掘坑 2 本

発掘面積 約 12.08m²

調査原因 個人住宅建設

検出遺構 土坑 1 基、溝 2 条

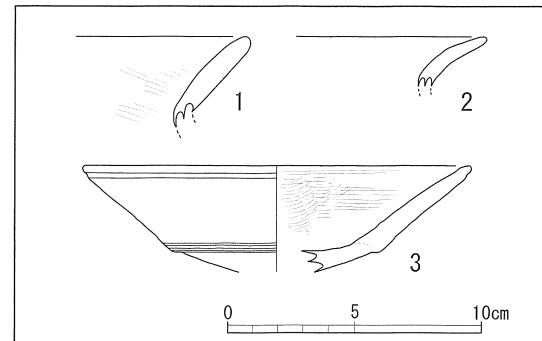
出土遺物 弥生土器（高杯等）、古墳土師器、時期不明土師器片等

調査概要

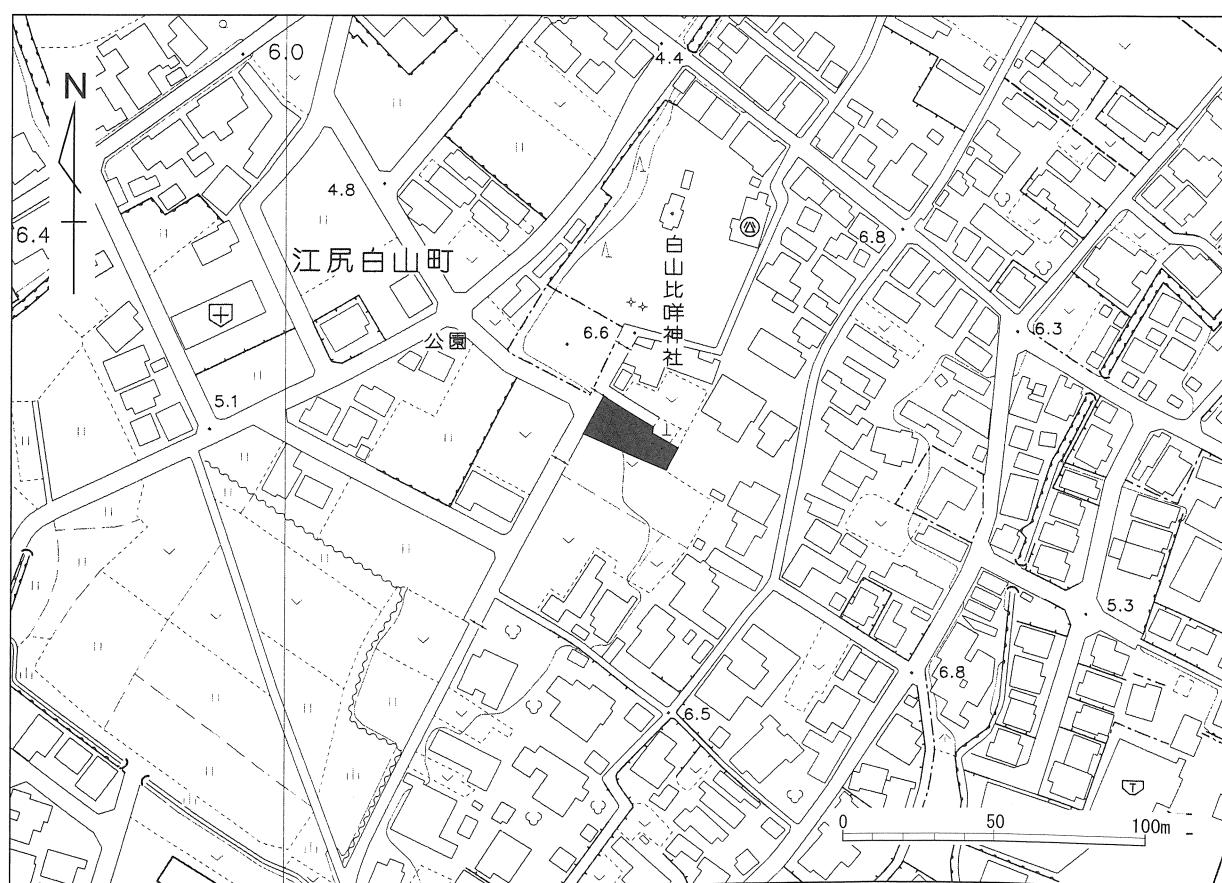
本地点は遺跡の中央に位置する。周辺の調査では古代須恵器・古代土師器が出土しているのみで、遺構の検出はない。遺跡北側の微高地上には白山比咩（ひめ）神社が所在する。

試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 40～50cm、標高約 5.4～5.5m 付近で地山が検出された。今回掘削した全ての試掘坑からは、土坑 1 基、溝 2 条が検出され、遺物は弥生土器片（高杯脚部など）、古墳土師器片（高杯など）が出土した。1 T S D 01 から遺物の出土はなかったが、1 T S K 01 の覆土からは、弥生土器（高杯脚部など）、土師器（高杯など）が出土した。2 T S D 01 からは土師器片が出土した。

出土遺物（第 15 図） 出土遺物は、弥生土器、古墳土師器、時期不明土師器などが出土した。下記に出土した古墳土師器を紹介する。1～2 は広口壺であると思われる。1 は外面口縁にヨコハケ後タテハケ、内面口縁にヨコハケ後ヨコナデを施す。2 は外面口縁及び内面口縁にヨコナデを施す。3 は有段高杯である。外面口唇部に緩い段を持つ。外面口縁部にヨコナデ、外面口縁部下部にヨコハケ、外面杯底部と内外面口唇部にナデを、内面杯部にヨコハケを施す。



第 15 図 東野地区 出土遺物実測図



第 14 図 江尻 C 遺跡（東野地区）調査区位置図

11. 下石瀬遺跡（楠地区）

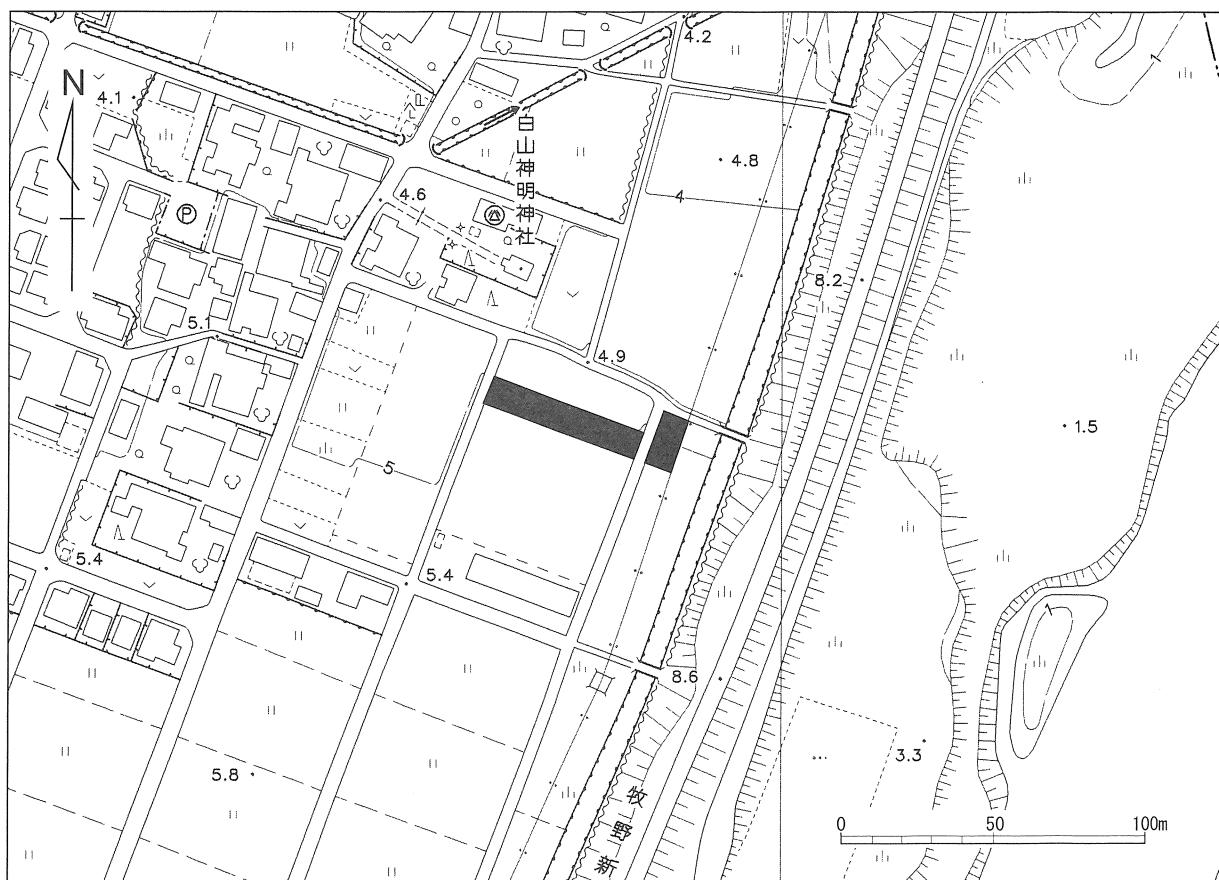
所 在 地	高岡市石瀬588-1、639-1、640-1
調 査 期 間	平成 27 年 11 月 16 日、17 日
対 象 面 積	1,367.11m ²
試 堀 坑	3 本
発 堀 面 積	約 72.86m ²
調 査 原 因	集合住宅建設
検 出 遺 構	土坑 2 基、溝 2 条
出 土 遺 物	弥生土器（高杯・甕等）、中世土師器、中世珠洲（擂鉢）、時期不明土師器片等

調査概要

本地点は遺跡の北に位置する。下石瀬遺跡は、昭和 47 年の富山県遺跡地図に縄文時代の遺跡として記載がなされている。近年の試掘調査では、古代～中世の遺物が見つかっている。

試掘調査は西側地区と東側地区の 2箇所の対象地に試掘坑を 3箇所設定し、地下の状況を把握したところ、掘削した試掘坑 1 本から土坑 2 基、溝 2 条が検出され、弥生土器（高杯・甕等）、中世土師器、中世珠洲（擂鉢）、時期不明土師器片等が出土した。

西側地区に設定した第 1・2 トレンチでは、地表面下約 40～50cm、標高約 4.0m 付近で地山面が認められたが、遺構は検出されず、遺物は中世土師器片が出土した。東側地区に設定した第 3 トレンチでは、地表面下約 30～40cm、標高約 3.9m 付近で地山面が認められ、溝 2 条（SD 01、02）が重なって検出された。他に、土坑 2 基（SK 01、02）が検出された。遺物は、SD 01、02 から弥生土器（高杯・甕等）、中世土師器、中世珠洲（擂鉢）、時期不明土師器片が出土した。また、噴砂が 1 条検出され、SD 01 はその噴砂に切られている。



12. 東木津遺跡（市道地区）

所 在 地 高岡市泉ヶ丘 856 番地 1 外 2

調査期間 平成27年12月1日

対象面積 320m²

試掘坑 1 本

発掘面積 約 23.29m²

調査原因 道路改良工事

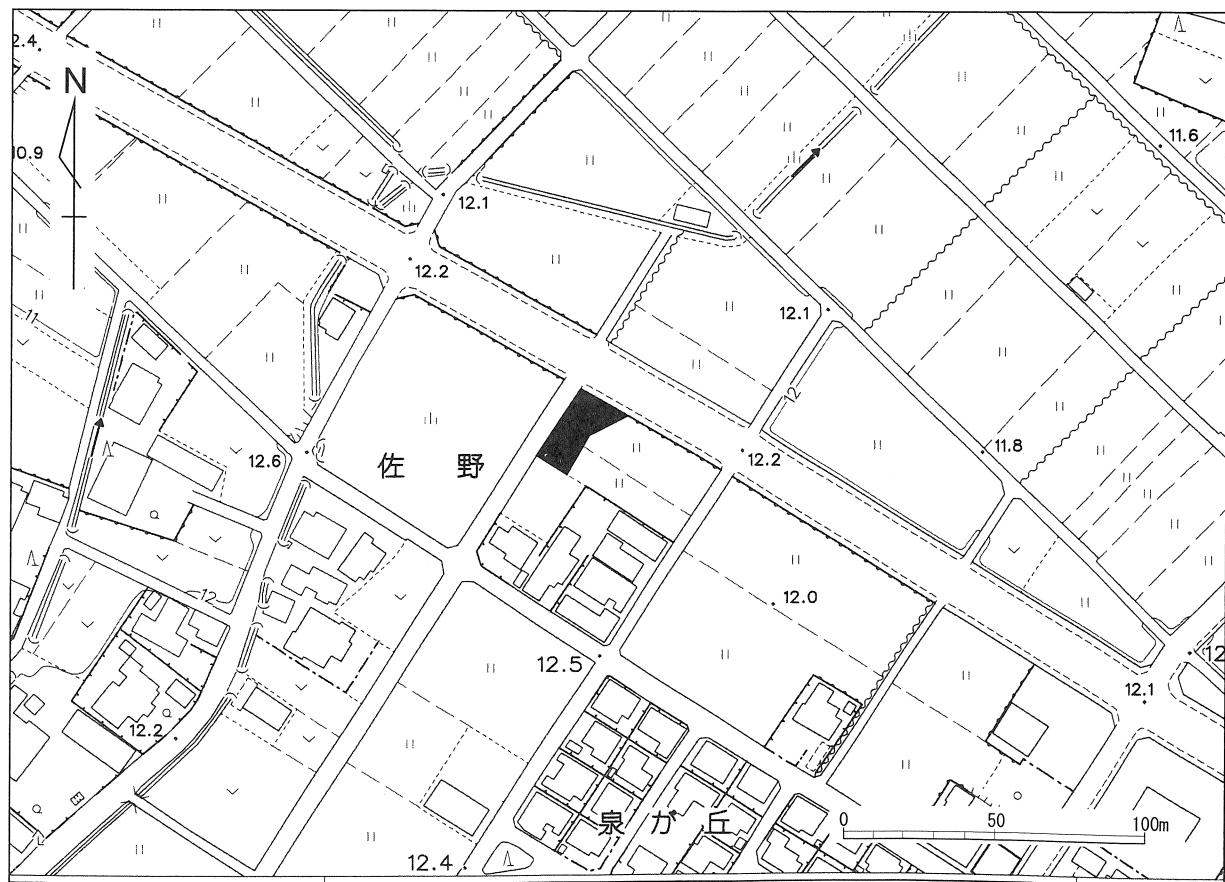
検出構造なし

出土遺物 なし

調查概要

本地点は遺跡の南西に位置する。周辺では、隣接する中木津遺跡も含めた土地区画整理事業や市道建設に伴う本調査が行われているが、遺構・遺物が希薄な地域である。

試掘調査は対象地に試掘坑を1箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約20～30cm、標高約11.3m付近で地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。



第17図 東木津遺跡（市道地区）調査区位置図

13. 中曾根遺跡（県道地区）

所 在 地	高岡市中曾根 1044 他 7 筆
調 査 期 間	平成 27 年 12 月 4 日～平成 28 年 3 月 4 日
対 象 面 積	5,000m ²
試 掘 坑	12 本
発 掘 面 積	約 195.6m ²
調 査 原 因	道路改良工事
検 出 遺 構	土坑 6 基、溝 6 条
出 土 遺 物	弥生土器、古代須恵器、中世珠洲、時期不明陶器、玉類未成品（瑪瑙）、石製品（砥石）、瓦

調査概要

本地点は遺跡の南西に位置する。中曾根遺跡は西神楽川などが流れ込む放生津潟付近の砂帯に立地する。間坂儀一郎氏の精力的な調査により、字名から旧遺跡名は吉原田遺跡と呼称していた。過去の調査では弥生時代～中世にかけての遺構・遺物が確認され、主に弥生時代の遺構が検出されている。

試掘調査は対象地に試掘坑を 12 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ～ 45cm、標高約 0.6 ～ 0.9m 付近で遺構検出面を確認した。遺構は弥生時代後期の土坑 3 基、溝 4 条と、時期不明の土坑 3 基、溝 2 条を検出した。遺物は弥生時代後期の弥生土器や、古代須恵器、中世珠洲、時期不明陶器、玉類未成品（瑪瑙）、石製品（砥石）、瓦が出土した。

東側から中央にかけては弥生時代後期の遺構・遺物の広がりが確認でき、特に東側では遺物包含層と玉作関係の遺物を確認している。加えて、微高地の外縁をなぞるような溝も検出していること、また遺構・遺物は前述した溝周辺で減少する状況が認められることから遺跡の南限を示す可能性もある。



第 18 図 中曾根遺跡（県道地区）調査区位置図

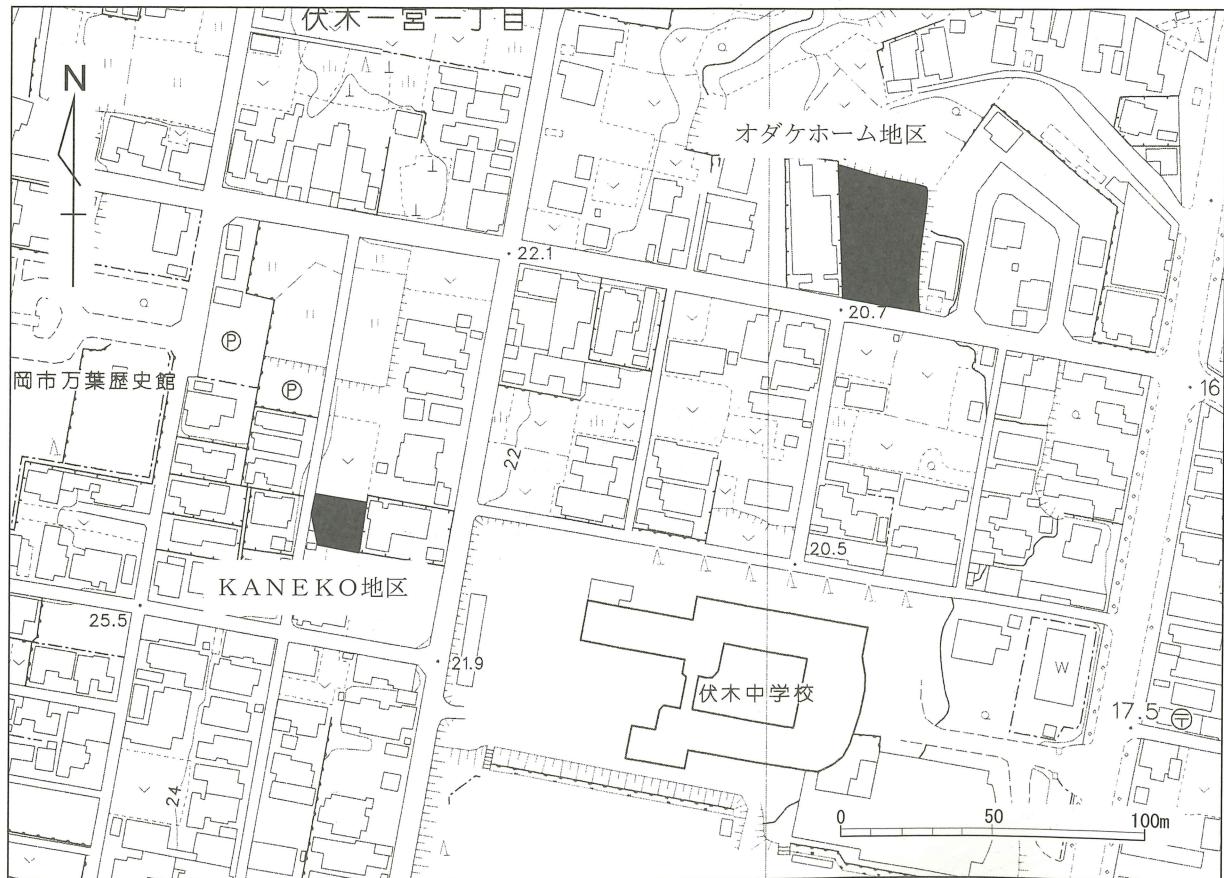
14. 越中国府関連遺跡（KANEKO地区・オダケホーム地区）

(KANEKO地区)		(オダケホーム地区)
所 在 地	高岡市伏木一宮一丁目 21	高岡市伏木一宮一丁目 648 番 5、648 番 6、 647 番 1、647 番 3
調査期間	平成 27 年 12 月 8 日	平成 28 年 1 月 27、28 日
対象面積	300.79m ²	1,315.04m ²
試掘坑	1 本	2 本
発掘面積	約 9 m ²	約 55.08m ²
調査原因	個人住宅建設	宅地造成
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	なし

調査概要

KANEKO地区は遺跡の中央に位置する。旧一宮村に所在し、小字「大塚」もしくは「五平立」に比定される。試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 100～110cm、標高約 22.9m 付近で灰色の地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。

オダケホーム地区は遺跡の北に位置する。旧一宮村に所在し、小字「大塚」もしくは「走折」に比定される。試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、調査区南側では地表面下約 80～90cm、標高約 20.2～20.3m 付近で青灰色の地山を検出した。また、調査区北側では地表面下約 200～210cm、標高約 19.6～19.7m 付近で青灰色の地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。



第 19 図 越中国府関連遺跡（KANEKO地区・オダケホーム地区）調査区位置図

15. 出来田南遺跡（津野地区）

所 在 地	高岡市出来田 261 番 1、 262 番 1
調 査 期 間	平成 27 年 12 月 25 日
対 象 面 積	882m ²
試 堀 坑	2 本
発 堀 面 積	約 28.5m ²
調 査 原 因	個人住宅建設
検 出 遺 構	なし
出 土 遺 物	古代須恵器(杯A他)、古代土師器、時期不明土師器

調査概要

本地点は遺跡の西に位置する。出来田南遺跡は過年度の高岡市教委による試掘調査と県道能町庄川線建設に伴う発掘調査の結果、古代の掘立柱建物群や竪穴建物、大溝などが検出され、文字資料や多量の土器類、祭祀具なども出土している。また、中近世の遺物も出土しているが遺構の状況は不明である。

試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 20 ~ 30cm 下、標高約 9.2 ~ 9.4m 付近で、灰色の地山を検出した。今回掘削した試掘坑から遺構の検出はなかったが、遺物は古代須恵器(杯 A 他)、古代土師器、時期不明土師器片が出土した。

出土した遺物は、部分的な出土に留まることから県道能町庄川線周辺の集落本体からの流れ込みと考えられる。



第 20 図 出来田南遺跡（津野地区）調査区位置図

16. 上北島遺跡（森田地区）

所 在 地 高岡市上北島350-1

調 査 期 間 平成28年1月6日

対 象 面 積 455m²

試 堀 坑 2本

発 堀 面 積 約3.81m²

調 査 原 因 駐車場造成

検 出 遺 構 なし

出 土 遺 物 なし

調査概要

本地点は上北島遺跡の北に位置する。上北島遺跡は平成2年度の市教委の分布調査により遺跡の存在と範囲が確認されており、平安時代から中世を中心とした遺跡とされる。遺跡範囲の中央部には上北島神社が所在し、周辺には石塚遺跡や下北島住吉遺跡など数々の遺跡が存在する。

試掘調査は対象地に試掘坑を2箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約40～80cm、標高約10.0～10.2m付近で地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物ともに検出されなかった。

対象地東側に設定した第1トレーナーは、地表面下約40～50cm、標高約10mまで掘り下げたところ、地山面が認められたが、層厚が薄く、トレーナー南側では検出できなかつたため、削平されていると考えられる。



第21図 上北島遺跡（森田地区）調査区位置図

17. 越中国府関連遺跡（マルシン地区・島谷地区）

	(マルシン地区)	(島谷地区)
所 在 地	高岡市伏木一宮二丁目260-1	高岡市伏木一宮二丁目 435 番 1
調査期間	平成 28 年 1 月 15 日	平成 28 年 2 月 8 日
対象面積	241m ²	225m ²
試掘坑	1 本	2 本
発掘面積	約 2.5m ²	約 10m ²
調査原因	個人住宅建設	個人住宅建設
検出遺構	なし	なし
出土遺物	なし	古墳土師器片、古代土師器

調査概要

マルシン地区は遺跡の北に位置する。旧一宮村に所在し、小字「大門」もしくは「一過寺」に比定される。本地点付近では、古代の遺構と遺物を検出している。

試掘調査は対象地に試掘坑を 1 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 30 ~ 40cm、標高約 21.7m 付近で灰褐色の地山を検出した。今回掘削した全ての試掘坑からは、遺構・遺物とともに検出されなかった。

島谷地区は遺跡の北に位置する。旧一宮村に所在し、小字「大門」に比定される。

試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 30 ~ 40cm、標高約 20.9m 付近で地山を検出した。遺構の検出はなかったが、遺物は地山直上の茶褐色土層より、古墳土師器（甕・高杯等）、時期不明土師器が出土した。一定量の遺物出土があることから、周辺に古墳時代の遺構がある可能性が高い。



第 22 図 越中国府関連遺跡（マルシン地区・島谷地区）調査区位置図

18. 下佐野遺跡（セブンイレブン地区）

所 在 地	高岡市佐野 510 番 1
調 査 期 間	平成 28 年 2 月 22 日～25 日
対 象 面 積	2,267m ²
試 掘 坑	5 本
発 掘 面 積	約 109.81m ²
調 査 原 因	店舗建設
検 出 遺 構	溝 3 条
出 土 遺 物	弥生土器、土師器（時期不明）、近世肥前陶磁（唐津・皿）

調査概要

本地点は遺跡の南に位置する。下佐野遺跡は周辺の試掘結果で古代・中世の遺構・遺物が見つかっており、遺跡の南側の高岡環状線関連の本調査では、弥生時代～中世の集落・墓域などが見つかっている。

試掘調査は対象地に試掘坑を 5 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、地表面下約 30～40cm、標高約 11.6m 付近で地山を検出した。遺構は溝 3 条が検出され、遺物は弥生土器、時期不明土師器、備前陶磁（唐津・皿）が出土した。



第 23 図 下佐野遺跡（セブンイレブン地区）調査区位置図

19. 瑞龍寺遺跡（二塚地区）

所 在 地 高岡市関本町 12番、13番

調 査 期 間 平成 28 年 3 月 10 日

対 象 面 積 515.15m²

試 掘 坑 2 本

発 掘 面 積 約 8 m²

調 査 原 因 個人住宅建設

検 出 遺 構 溝 1 条

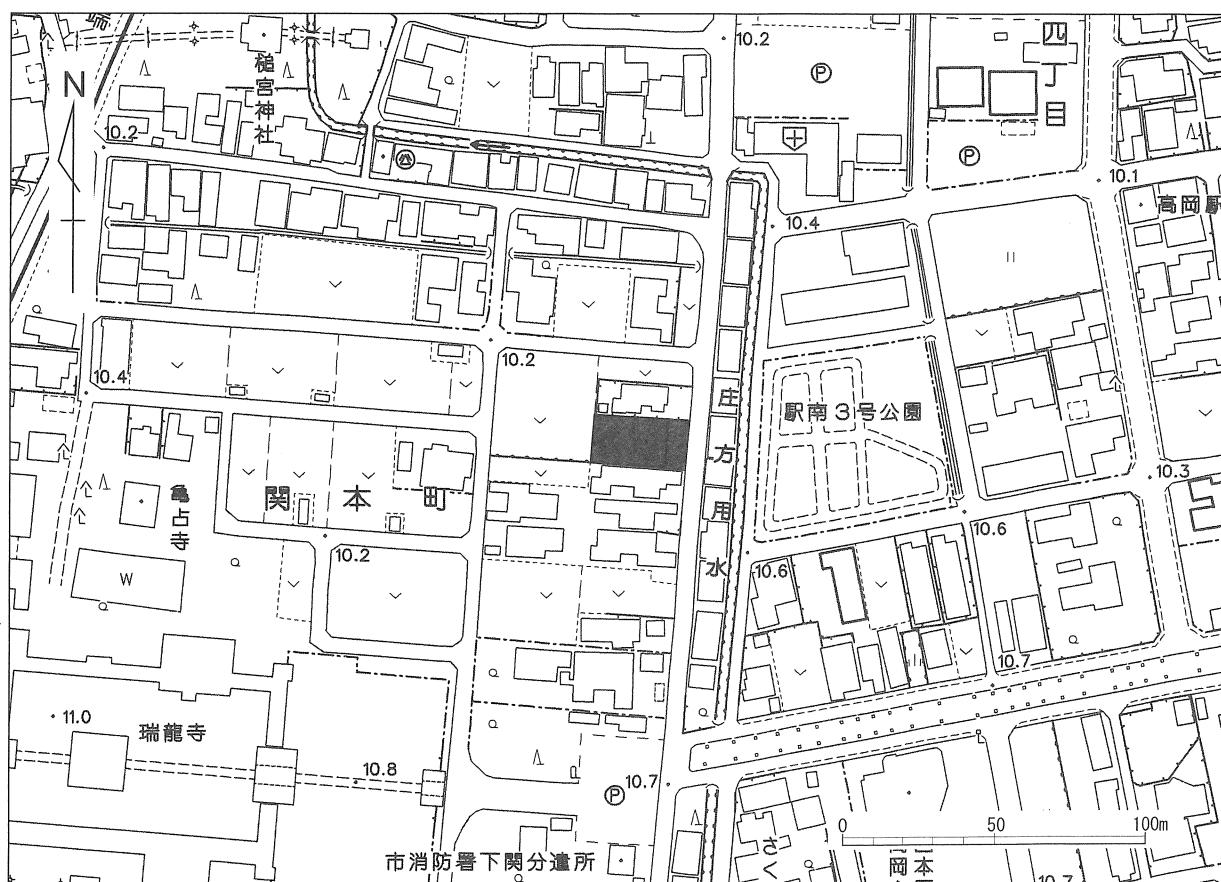
出 土 遺 物 なし

調査概要

本地点は遺跡の北東端、外堀の推定地に位置する。本調査区の周辺では、瑞龍寺建立以前の中世後半から遺構・遺物が確認され、瑞龍寺で使用された瓦の出土事例も多い。

試掘調査は対象地に試掘坑を 2 箇所設定し、地下の状況を把握したところ、今回掘削した 2 箇所の試掘坑から溝 1 条が検出されたが、遺物は出土しなかった。

西側に設定した第 1 トレンチでは、地表面下約 50cm まで掘り下げたところ、標高約 9.4m 付近にて灰色の地山を検出した。遺構・遺物の出土はなかった。東側に設定した第 2 トレンチでは、地表面下約 50cm まで掘り下げたところ、標高約 9.4m 付近にて灰色の地山を検出した。遺構は東西方向の溝 1 条が検出された。遺物は深さ 30cm 程度の深さで近世越中瀬戸椀の小片や中世珠洲・擂鉢の小片が出土したがいずれも小片であり、地山から離れていることから、流れ込みの遺物と考えられる。検出された溝を断ち割ったが、出土遺物はなかった。



第 24 図 瑞龍寺遺跡（二塚地区）調査区位置図

第4表 平成27年度の調査一覧（1～19以外）

	遺跡名	地区名	所在地	調査面積	種別	検出遺構	出土遺物	調査原因
20	上野A遺跡	林地区	高岡市福岡町上野93番	7.2m ² 集落	なし	なし	なし	個人住宅建設
21	中木津遺跡	中村地区	高岡市木津904	7.5m ² 散布地	なし	なし	なし	個人住宅建設
22	中木津遺跡	山本地区	高岡市木津898番5	3.04m ² 散布地	なし	なし	なし	個人住宅建設
23	中木津遺跡	山本2地区	高岡市木津894-2、895-1	8.99m ² 散布地	なし	なし	なし	個人住宅建設
24	中曾根西遺跡	眞野地区	高岡市中曾根532番地6	4.5m ² 集落	なし	なし	なし	個人住宅建設
25	中曾根西遺跡	姫野地区	高岡市中曾根2916番	16.3m ² 集落	なし	なし	なし	個人住宅建設
26	越中国府関連遺跡	親交開発地区	高岡市伏木一宮二丁目600番	27.1m ² 官衙	なし	なし	なし	駐車場造成
27	中曾根北遺跡	柴地区	高岡市中曾根9番地2	22.88m ² 散布地	なし	なし	なし	社宅建設
28	中曾根遺跡	藤田地区	高岡市中曾根804-1、804-2	2.4m ² 散布地	なし	なし	なし	個人住宅建設
29	波岡西遺跡	サークルK地区	高岡市波岡317-1、317-5、318-1、318-4	64.32m ² 散布地	なし	なし	なし	店舗建設
30	中曾根館遺跡	高浪地区	高岡市中曾根2051	4m ² 散布地	なし	なし	なし	個人住宅建設
31	上牧野宮袋遺跡	市道地区	高岡市上牧野355番地1 他5筆	86.53m ² 散布地	なし	なし	なし	道路改良工事
32	蓮花寺遺跡	戸田地区	高岡市蓮花寺648番	4.57m ² 散布地	なし	なし	なし	個人住宅建設

市内分布調査

第3章 市内分布調査

第1節 調査の経緯と目的

高岡市、旧福岡町の埋蔵文化財包蔵地は、昭和47年（1972）に富山県教育委員会文化財課より発行された『富山県遺跡地図』に掲載されており、それを使用して遺跡の把握に努めてきた。しかし、農地転用等の各種開発行為が増加したことから、より詳細な遺跡地図が必要となってきた。

これらの経緯を踏まえて高岡市では、昭和58年～昭和62年度（1983～1987）の5ヵ年をかけて、西山丘陵遺跡分布調査事業を行い、小矢部川左岸一帯の西山・二上地域（西山丘陵・二上丘陵とその周辺の平野部）の約6,000haを踏査した。また、平成元年から平成10年度（1989～1999）の10ヵ年をかけて、市内遺跡分布調査事業を行い、西山丘陵遺跡分布調査事業の対象地以外の約9,000haを踏査した。そして、二つの事業の成果をまとめて、平成11年度（2000）に『高岡市遺跡地図』を作成し、埋蔵文化財包蔵地の周知を図った。

一方、平成17年度に高岡市に合併した福岡町では、平成14年～平成18年度（2002～2007）の5ヵ年をかけて、分布調査事業を行った。

現在、その後の調査や研究において新しい知見から、埋蔵文化財包蔵地の可能性があるものがいくつか確認されている例や、風化等で石造物などが破損している例が見られている。

そのため、高岡市教育委員会では、新規の埋蔵文化財包蔵地の確認や既存の埋蔵文化財包蔵地の内容の確認を目的に分布調査を行うこととした。

第2節 調査の経過

平成27年度は、高岡市江道に位置する円通庵遺跡の石造物を中心に、図面化することとした。現況の位置の測量は（株）エイ・テックに委託し、調査や成果に関しては、高岡市文化財審議委員の西井龍儀氏より指摘をいただいた。

現況の測量は平成27年度に行い、調査期間は平成27年12月4日から平成28年3月25日までである。

第3節 位置と環境

第1項 地理的環境

調査対象地周辺は、高岡市西部に位置する国吉地区と石堤地区に含まれており、かつての国吉村と石堤村の地域である。この地域は北西側が丘陵性の山地となり、南東側が平野部で小矢部川までの広がりである。小矢部川左岸に位置し、小矢部川に流れる広谷川の流域に遺跡が分布している。調査対象地は、広谷川中流域の左岸の江道集落の南東部にあたり、南東方向に派生してきた丘陵の先端部に位置する円通庵遺跡である。主要地方道高岡羽咋線が走りここに臨む平坦面には石仏・石塔が散乱し、寺院跡とされてきた。ここより東側でやや高い所にも平坦面があり、塚状の高まりがある。



第25図 調査位置図

第2項 歴史的環境

1 円通庵遺跡について

円通庵は、約1.5km東方の手洗野の曹洞宗国上山信光寺の11世関達（宝暦8年〈1758〉没）の開基という（『越の下草』）。信光寺は元亨3年（1323）珍山源照創建の寺院だが、中絶期があり、高岡山瑞龍寺開山広山如陽（～1623）を中心興開山第一世とする。

『越の下草』は円通庵について「此処往古の寺院なりとて、山間の岩壁に仏像並梵字を彫付けられたり・・・」と記しており、今も円通庵遺跡は砂岩の磨崖に刻んだ月輪列や龕もある。また五輪塔や宝篋印塔、層塔、「天文16年（1547）」銘の五輪塔陽刻板石塔婆、14世紀代とみられる藪田石の片足踏み下げ地蔵、阿弥陀如来立像、六

地蔵となっている地蔵菩薩立像など、多くの石塔、石仏類が散在している。こうしたことからみて遺跡は円通庵に先立つ寺院にかかるものである。

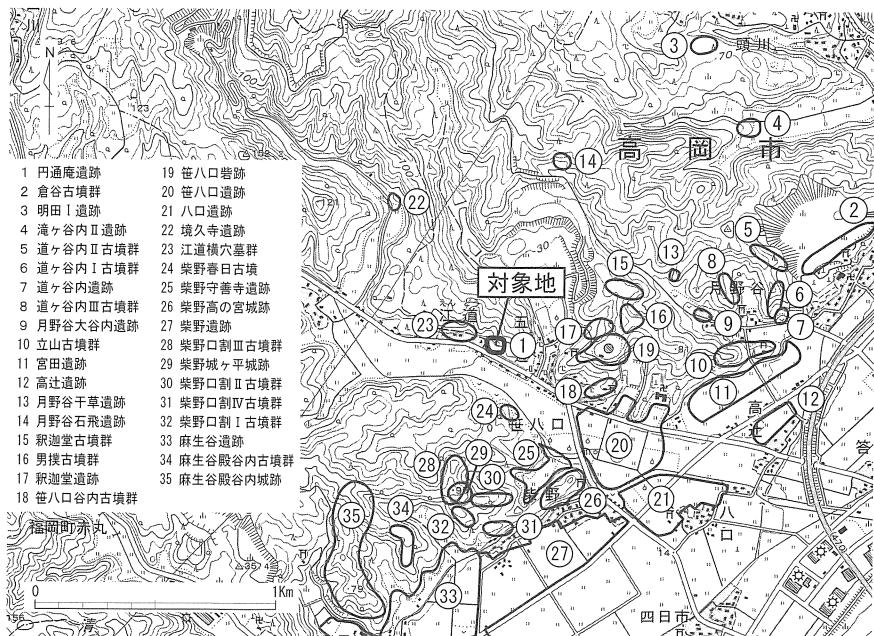
最も良好に残っていた阿弥陀如来立像は、地元の人が道路脇に石龕を掘り安置していた。

その後道路拡幅工事に伴い現在地に移設された。同立像は、造り出しの方座及び光背を伴うもので、別石による台石（台座）の上に載っている。円筒状の柄を除いた総高は93cm、方座前幅28cm、同奥行19cm、同高さ5.5cm、像高は71cmである。本体は敷田石で台石は岩崎石である。鎌倉時代末～室町時代のものと推定される。良質であり当寺院跡の本尊であった可能性もある。

2 周辺の遺跡や石造物等

広谷川中流域の江道地内の丘陵裾部には江道横穴墓群が位置している。この横穴墓群は昭和31年と平成8年に発掘調査が実施されている。20基の横穴墓から構成されており、7世紀代のものである。発掘調査からは、大量の人骨や貴重な副葬品が出土しており、高岡市の歴史を知る上でも非常に重要な遺跡である。

広谷川の下流域には、五十辻・笛八口集落が位置しており、背後の丘陵上には、笛八口谷内古墳群がある。近くには、笛八口砦跡や积迦堂遺跡も位置している。一方右岸側、柴野集落背後には、柴野城ヶ平城跡、柴野高ノ宮城跡がある。これらの遺跡のある谷奥には、高岡市指定文化財の石造千手観音菩薩立像が安置されている。この千手観音は、越中守護代神保氏のもとで活躍した有力家臣である寺嶋職恵が、天文21年（1552）に立山寺へ勧請し奉するため模刻造立されたものと考えられている。本来、岩崎寺の「立山寺」に勧請されるべき観音石仏が柴野に停まったのは、寺嶋氏の柴野城にかける重要性と、周辺の変動を反映していると推定されている（西井2012）。



第26図 調査対象地と周辺の遺跡

第4節 調査の方法と成果

第1項 調査の方法

調査はまず現地踏査を行い、測量する範囲を決めた。今回は月輪が彫られている岩壁と石造物の位置を記録するよう立面図の作成を主とした。測量のポイントとなる部分を確認し、露岩部分（15m × 3m）の範囲を写真測量した。その後、1/20の精度で素図を作成した。素図を基に現地確認し、修正するとともに立面図を完成させた。

第2項 調査の成果

立面図を作成することによって岩窟の規模、現段階の石造物の位置を記録することができた。立面図については、東面を図化したものであり、図面の右が南方向、左が北方向である。まず、南から見ていく。岩盤を削った範囲は、幅5m、高さ2mである。南端には月輪が線刻され、それらは4段になっており確認できるもので13箇所である。形を認識できる石造物は、方錐角柱形板石塔婆1基、五輪塔形陽刻板石塔婆2基、地蔵菩薩立像の胴体部が5躯、五輪塔の空風輪1基、火輪7基、水輪2基である。それ以外は、破片となっている。地蔵菩薩立像4躯と方錐角柱形板石塔婆1基は、1mほどさらに岩盤を削った場所に安置している。また、現況は岩盤の風化等に伴う土が

堆積していることから、これらの土の中に石造物が埋まっている可能性もある。

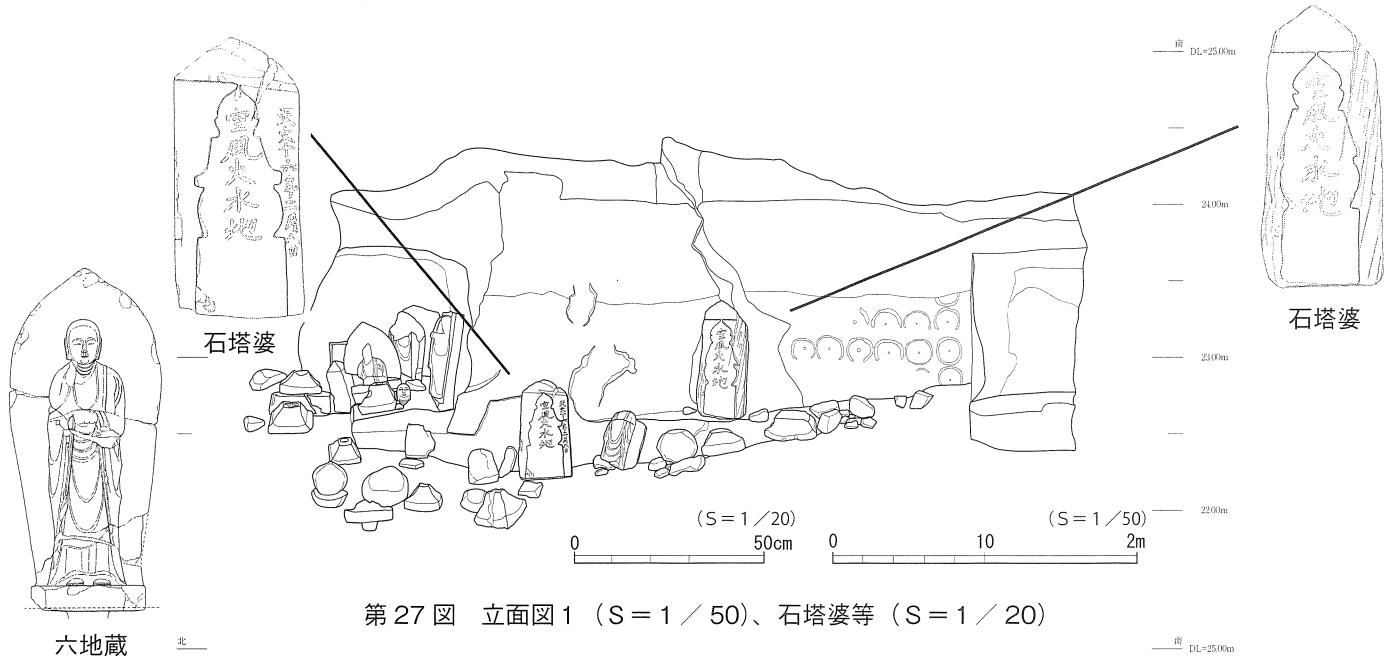
北側は、幅5m、高さ2mの範囲を削っており、さらに2箇所の龕が掘られており、一箇所には片足踏み下げ地蔵が安置してある。形を認識できる石造物は、宝篋印塔の基礎1基、五輪塔の火輪1基、水輪1基、地輪1基である。それ以外は、破片となっている。南側と同様で土が堆積しており、石造物が埋まっている可能性がある。

五輪塔形陽刻板石塔婆は、地輪の丈が高く、火輪の軒出が小さい特徴をもっている。在銘板石塔婆は粗粒砂岩で、岩崎石・太田石と似る。高さ73cmと大きく、東部に三角形の額をもち、五輪塔形を陽刻する。16世紀後半の基準資料となる。

六地蔵はいずれも損壊、分断し、部品から確認できる5躯分である。このうち頭部が残る1躯は4個に割れているものの、ほぼ全体像がわかる。この地蔵菩薩立像は、方座上から光背頂部までの総高は82cm、同高さ6cm、奥行20cmである。また、像高は63cm、頭長は10.5cmである。

この六地蔵と前節で紹介した阿弥陀如来像の時期ははっきりしないが、16世紀前後ではないかと想定されている。

在銘の板石塔婆は、天文16年（1547）、柴野の千手觀音が天文21年（1552）であることから、16世紀前後の円通庵の様相と寺嶋職恵との関係性について伺われる。今後の課題とともに、これらの石造物の保存をどのように行うかも検討していきたい。



第27図 立面図1 ($S = 1 / 50$)、石塔婆等 ($S = 1 / 20$)

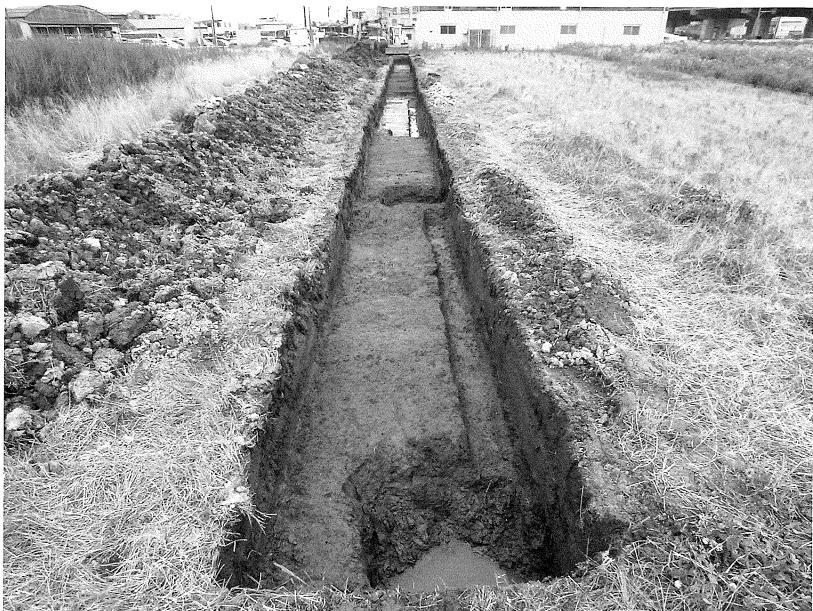


第28図 立面図2 ($S = 1 / 50$)

参考文献

- 石川県小松市教育委員会 2003 『八日市地方遺跡 I』
射水市教育委員会 2007 『高島 A 遺跡発掘調査報告』
京田 良志 1976 「富山の石造美術」富山文庫5 株式会社巧玄出版
京谷 準一 1966 『国吉小史』国吉小史刊行委員会
高岡市教育委員会 1991 『高岡市埋蔵文化財分布調査概報 II』
高岡市教育委員会 1995 『高岡市埋蔵文化財分布調査概報 VI』
高岡市教育委員会 1997 『市内遺跡調査概報 VII』
高岡市教育委員会 1999 『国吉・石堤地区の遺跡調査概報』
高岡市教育委員会 2001a 『市内遺跡調査概報 X I』
高岡市教育委員会 2001b 『石塚遺跡・東木津遺跡調査報告』
高岡市教育委員会 2003 『上野 A 遺跡発掘調査報告書 II』
高岡市教育委員会 2005a 『中曾根西遺跡調査報告』
高岡市教育委員会 2005b 『上牧野宮袋遺跡調査概報』
高岡市教育委員会 2010a 『越中国府関連遺跡調査報告』
高岡市教育委員会 2010b 『中曾根西遺跡調査報告 II』
高岡市教育委員会 2010c 『市内遺跡調査概報 X IX』
高岡市教育委員会 2011 『下佐野遺跡調査報告 II』
高岡市教育委員会 2014a 『市内遺跡調査概報 X X III』
高岡市教育委員会 2014b 『中木津・西木津遺跡調査報告』
高岡市教育委員会 2015 『市内遺跡調査概報 24』
高岡市教育委員会 2016 『市内遺跡調査概報 25』
寺前 直人 2010 「第5章武器と儀礼」『武器と弥生社会』大阪大学出版会
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2006 『下老子笠川遺跡発掘調査報告』
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2013a 『井口本江遺跡発掘調査報告』
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2013b 『下黒田遺跡・下佐野遺跡・諏訪遺跡・藏野町東遺跡・藏野町遺跡・駒形遺跡発掘調査報告』
富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2015 『出来田南遺跡発掘調査報告』
西井 龍儀 2007 「石動山の石造物 氷見の石造物」『氷見市史』10 資料編
8 文化遺産
西井 龍儀 2012 「付記「立山寺」在銘の千手觀音菩薩立像」『立山信仰宗教
村落 - 岩峠寺 - 石造物調査報告書』
福岡町教育委員会 2003
間坂 儀一郎他 1977 「資料(二) 牧野の今昔史」『牧野小学校百年史』牧野小学校百年史編纂委員会編
宮永 正運 1980 『越の下草』富山県郷土史会

写 真 図 版



1. 江尻南遺跡
土地区画整理地区
第7トレンチ全景（東）



2. 江尻南遺跡
土地区画整理地区
第7トレンチ土坑SK01
遺物出土状況（南）

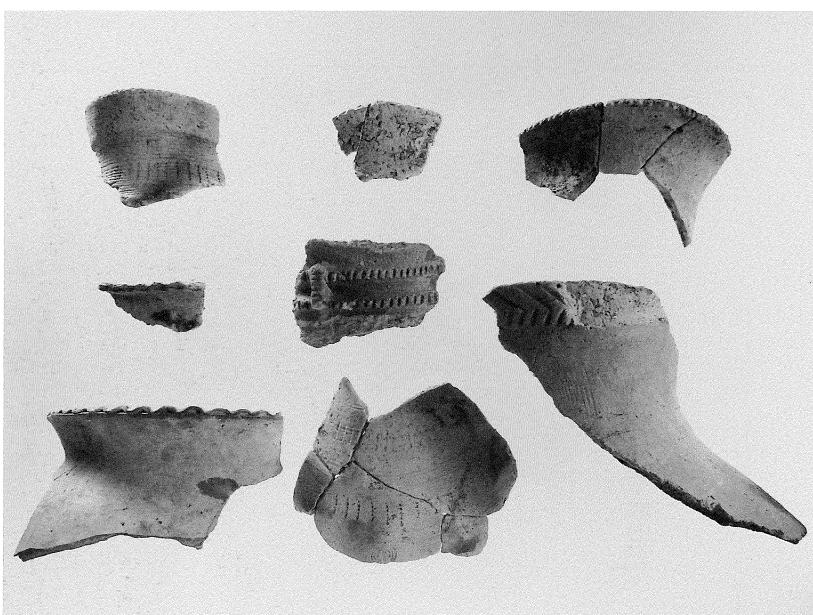


3. 江尻南遺跡
土地区画整理地区
第20トレンチ全景（西）

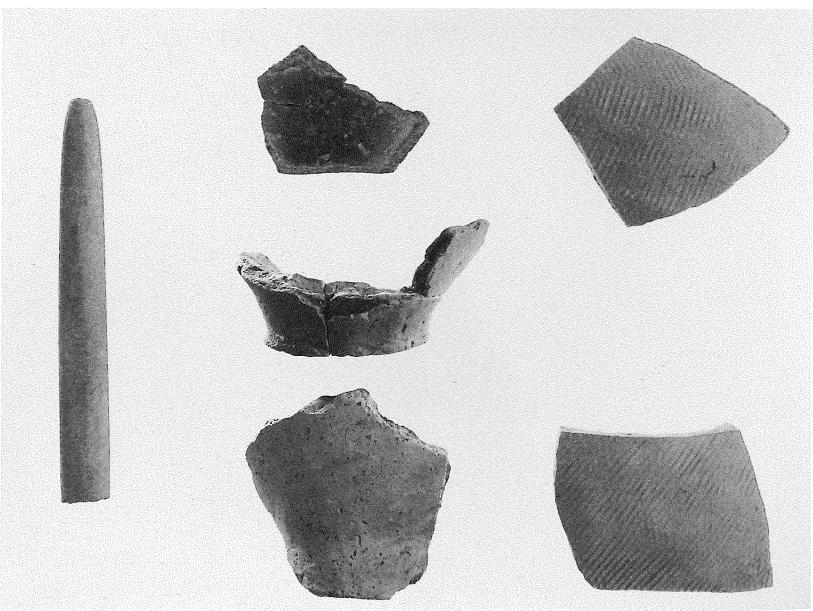
図版〇一
遺構写真 江尻南遺跡



1. 江尻南遺跡
土地区画整理地区
第20 トレンチ溝 S D01
遺物出土状況（南）



2. 江尻南遺跡
土地区画整理地区
弥生土器



3. 江尻南遺跡
土地区画整理地区
石劍・弥生土器・須恵器

図版〇三　遺構写真　越中国府関連遺跡・中木津遺跡



1. 越中国府関連遺跡
中島地区
第1トレンチ全景（東）



2. 越中国府関連遺跡
松平地区
第1トレンチ全景（北西）



3. 中木津遺跡
土地区画整理27街区1地区
第1トレンチ全景（北）



1. 中木津遺跡
土地区画整理 25 街区 3 地区
第 2 トレンチ全景（西）



2. 越中国府関連遺跡
大本地区
第 1 トレンチ全景（北）



3. 越中国府関連遺跡
健美福祉会地区
第 1 トレンチ全景（西）



1. 越中国府関連遺跡
市営住宅地区
第1トレンチ全景（東）



2. 越中国府関連遺跡
坂口地区
第1トレンチ全景（南西）

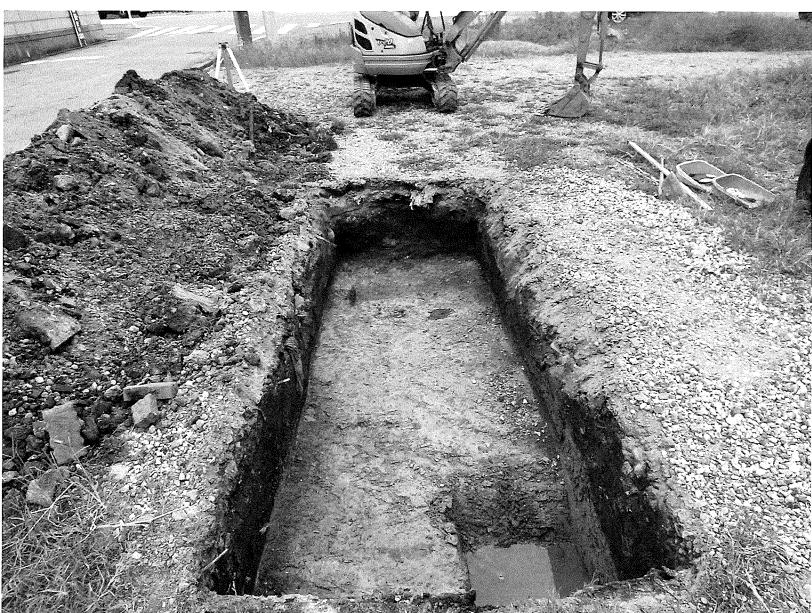


3. 瑞龍寺遺跡
吉田地区
第1トレンチ全景（北）

図版〇六 遺構写真 瑞龍寺遺跡・中曾根西遺跡・蔵野町遺跡



1. 瑞龍寺遺跡
伏江地区
第2トレンチ全景（東）



2. 中曾根西遺跡
清原地区
第1トレンチ全景（西）

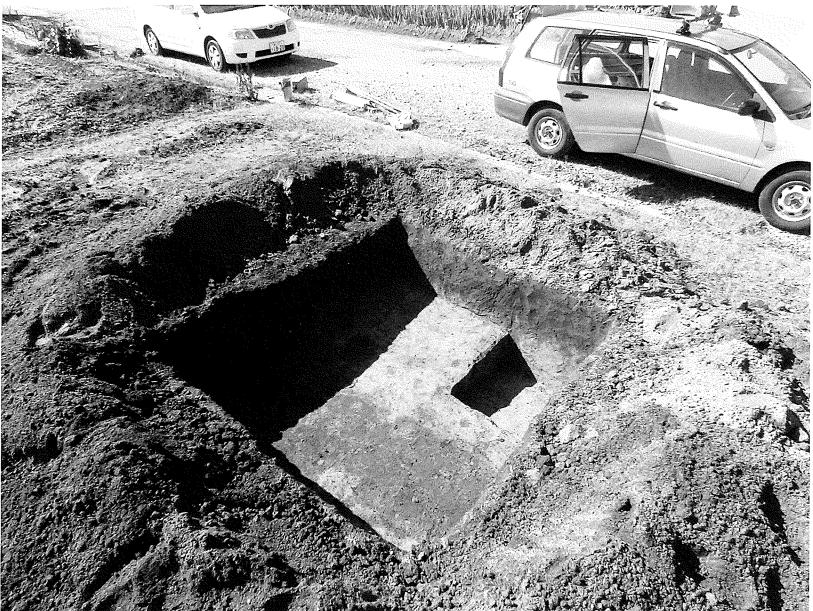


3. 蔵野町遺跡
JA高岡地区
第2トレンチ全景（東）

図版〇七 遺構写真 下北島住吉遺跡・江尻C遺跡



1. 下北島住吉遺跡
早瀬地区
第1トレンチ全景（南）



2. 江尻C遺跡
東野地区
第1トレンチ全景（北東）



3. 江尻C遺跡
東野地区
第2トレンチ
溝S D01全景（西）



1. 下石瀬遺跡
楠地区
第1トレンチ全景（西）



2. 東木津遺跡
市道地区
第1トレンチ全景（南）



3. 中曾根遺跡
県道地区
第2トレンチ全景（東）

図版〇九 遺構写真 中曾根遺跡・越中国府関連遺跡



1. 中曾根遺跡
県道地区
第3トレンチ全景（西）

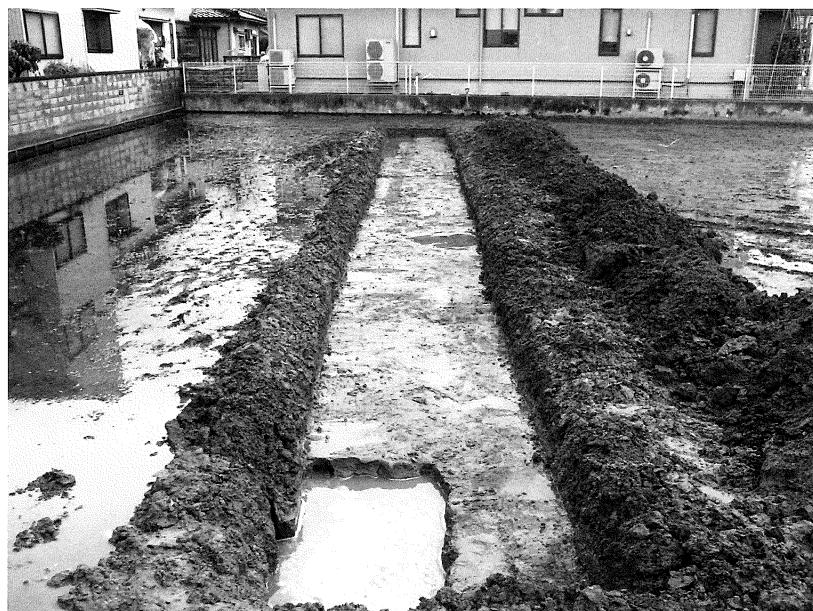


2. 越中国府関連遺跡
KANEKO地区
第1トレンチ全景（北）



3. 越中国府関連遺跡
オダケホーム地区
第1トレンチ全景（西）

図版一〇 遺構写真 出来田南遺跡・上北島遺跡・越中国府関連遺跡



1. 出来田南遺跡
津野地区
第1トレンチ全景（西）



2. 上北島遺跡
森田地区
第2トレンチ全景（東）



3. 越中国府関連遺跡
マルシン地区
第1トレンチ全景（北西）

図版一一 遺構写真 越中国府関連遺跡・下佐野遺跡・瑞龍寺遺跡



1. 越中国府関連遺跡
島谷地区
第1トレンチ全景（北）



2. 下佐野遺跡
セブンイレブン地区
第1トレンチ全景（西）



3. 瑞龍寺遺跡
二塚地区
第2トレンチ全景（南西）



1. 上野A遺跡
林地区
第1トレンチ全景（北東）



2. 中木津遺跡
中村地区
第2トレンチ全景（西）



3. 中木津遺跡
山本2地区
第1トレンチ全景（南）

図版一三 遺構写真 中曾根西遺跡・越中国府関連遺跡



1. 中曾根西遺跡
眞野地区
第1トレンチ全景（南東）



2. 中曾根西遺跡
姫野地区
第1トレンチ全景（南西）



3. 越中国府関連遺跡
親交開発地区
第1トレンチ全景（西）

図版一四 遺構写真 中曾根北遺跡・中曾根遺跡・波岡西遺跡



1. 中曾根北遺跡
柴地区
第1トレンチ全景（南）



2. 中曾根遺跡
藤田地区
第1トレンチ全景（北西）



3. 波岡西遺跡
サークルK地区
第1トレンチ全景（南東）

図版一五 遺構写真 中曾根館遺跡・上牧野宮袋遺跡・蓮花寺遺跡



1. 中曾根館遺跡
高浪地区
第1トレンチ全景（西）



2. 上牧野宮袋遺跡
市道地区
第2トレンチ全景（南）



3. 蓮花寺遺跡
戸田地区
第1トレンチ全景（北）

報 告 書 抄 錄

ふりがな	しないいせきちょうさがいほうにじゅうろく							
書名	市内遺跡調査概報 26							
副書名	平成 27 年度 江尻南遺跡の発掘調査報告他							
卷次								
シリーズ名	高岡市埋蔵文化財調査概報							
シリーズ番号	第 77 冊							
編集機関	高岡市教育委員会							
発掘担当者	田上和彦 杉山大晋 管頭明日香							
報告書編集者	田上和彦 杉山大晋 盛田拳生							
所在地	〒 933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号 TEL 0766-20-1463							
発行年月日	西暦 2017 年 3 月 24 日							
所収遺跡名	所在地	コ一ド	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
江尻南遺跡	富山県高岡市 江尻	市町村 016202	遺跡番号 202213	36° 45' 31"	137° 01' 50"	150519 150625	927.97m ²	土地区画整理
その他の遺跡 各調査区	富山県高岡市	016202				150422 160322		個人専用 住宅建設等
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
江尻南遺跡	散布地	縄文 中世	土坑 24 基 溝状遺構 28 条	弥生土器(中世) 須恵器(古代) 珠洲(中世) 近世陶磁器等				

高岡市埋蔵文化財調査概報第 77 冊

市内遺跡調査概報 26

編集・発行 高岡市教育委員会

〒 933-8601 富山県高岡市広小路 7 番 50 号
TEL 0766-20-1463

2017 年 3 月 24 日

印刷所 小間印刷株式会社

〒 933-0927 富山県高岡市利屋町 3
TEL 0766-21-0411